

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名: 学校法人 学習院

1. 事業の概要

事業名称	持続可能性を意識した日本語学習環境作り—共生社会における地域と大学の連携—
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	豊島区は人口の約1割が外国籍住民であり(26,458人、2021年1月1日現在)、彼らは地域社会の重要な構成員である。しかし、日本語学習環境を見直すと、日本語教室の開講曜日・時間・場所には偏りがある。また、2020年度においては区内教室の半数以上が休止せざるをえない状況となった。社会的に様々な制限を受ける状況であったとしても、外国人が社会の一員として主体的・協働的に日本語を学び続けることのできる環境を作っていくことが求められていた。
事業の目的	外国籍住民が、社会(コミュニティ)の一員として日本語を学び、日本語でコミュニケーションできる環境を作ることは、外国人が人口の1割を超える存在となっている豊島区が、真の共生社会となるために、さらには、消滅可能性都市(日本創生会議、2014)を脱却するために、優先すべき課題の一つである。しかし、世界を襲ったCOVID-19の影響を受け、過半数の区内日本語教室が休室を余儀なくされているという現状は、当区の日本語教育体制の脆弱さを如実に表している。 2019年度に築いたネットワーク「日本語ネットとしま」において、この課題について問題提起し、域内において途切れることのない日本語学習支援体制、漏れのない支援体制、を築いていくための議論を進め、具体的な方策を検討する。社会状況によって、日本語教育、日本語学習支援が途絶えてしまうことのないよう、新たな方法を取り入れた日本語教育の実践を通じて、言語教育の方法を再考すると同時に、2019年度の日本語教室等を対象とした調査、2020年度の外国籍住民を対象とした結果を踏まえて、豊島区において必要かつ有効な日本語教室運営、地域日本語教育体制を提案する。 並行して、日本語ができるようになってから日本社会に参入するという発想ではなく、外国人が社会への発信者となることを目指したプロジェクト型活動を取り入れた研修を実施し、日本人・外国人双方のコミュニケーション能力の向上、相互理解の促進を図る。
本事業の対象とする空白地域の状況	該当しない
事業内容の概要	1. 体制整備「区内日本語教育連携体制の新たな展開に向けて」: (1)2019年度に豊島区日本語教育ネットワーク会議体として発足した「日本語ネットとしま」を開催した(年3回)。2019年度、2020年度に実施した調査の結果を踏まえ、課題解決に向けた意見交換を行い、具体的方策を計画した。(2)「日本語ネットとしま」が公的かつ自主的な組織となることを目指し、情報共有・意見交換を進めた。 2. 日本語教育「継続的な学習を可能にする日本語教室づくり」: ICT等、多様なリソースを活用し、遠隔授業の可能性も生かしつつ、対面授業及び対面コミュニケーションの意義を感じられる日本語教室を企画・運営した。社会の中で日本語を用いながら、自律的・協働的に学び続けられる環境作りを意識した教育活動を行った。消防署、民間団体と連携し、生活に必要な日本語を実践的に学ぶ場、日本語能力を向上させつつ日本社会について学ぶ場、相互理解の場を作った。 3. シンポジウム「豊島区における日本語教育体制のこれから—日本語が学びやすい環境を作るために—」の開催: 本事業の活動報告、豊島区の外国人施策の現状報告、実践報告、パネルディスカッション、日本語学習者によるポスター発表を行った。 4. 人材の育成「共に育てる日本語コミュニケーション能力」: プロジェクト型活動を行う日本語学習者に対する支援を一般日本語母語話者が行うことを核とした研修を行った。活動を通じ、発話調整、傾聴、異文化間コミュニケーションについて実践的に学び、地域社会の中に、日本語学習者との有効なやりとりができる人、外国人や日本語学習に対する理解者を増やした。
事業の実施期間	令和 3年 5月～令和 4年 3月 (11 か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	金田 智子	学習院大学文学部 教授
2	杜 長俊	学習院大学国際センター 准教授
3	中上 亜樹	学習院大学文学部 准教授
4	安達 絵美子	豊島区政策経営部企画課 課長
5	岡田 麻矢	豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習グループ 社会教育主事
6	吉田 聖子	川崎市国際交流協会評議員、人材育成コーディネーター
7	米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表
8	文野 峯子	人間環境大学 名誉教授
9	品田 潤子	BPC研修サービス 代表



【概要】

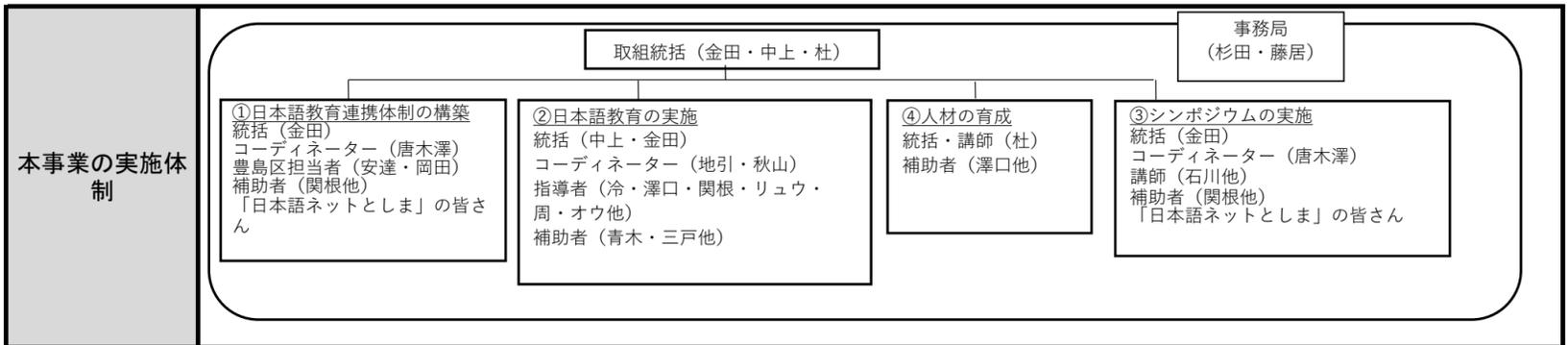
回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年8月3日(土) 13:00～15:30	2.5時間	学習院大学中央教育研究棟507教室 及びオンライン (Zoom)	<会場参加> 岡田麻矢、下条由紀子、金田智子、杜長俊、唐木澤みどり、秋山文菜 <オンライン参加> 安達絵美子、阿部治子、後藤芳行、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、地引愛	1. 委員及び出席者紹介 2. 2020年度事業についての報告・成果について 3. 2021年度事業計画及び準備状況と経過報告 (1)取組1「地域連携体制整備」経過報告 (2)取組2「日本語教育の実施」活動報告 (3)取組4「人材育成」経過報告 4. 今後の予定について
2	令和4年1月7日(金) 10:00～12:30	2.5時間	学習院大学中央教育研究棟507教室 及びオンライン (Zoom)	<会場参加> 品田潤子、金田智子、杜長俊、唐木澤みどり、地引愛、秋山文菜 <オンライン参加> 安達絵美子、岡田麻矢、阿部治子、後藤芳行、下条由紀子、文野峯子、吉田聖子、米勢治子、中上亜樹	1. 2021年度事業の経過報告 (1)取組1「地域連携体制整備」経過報告 (2)取組2「日本語教育の実施」活動報告 (3)取組4「人材育成」経過報告 2. 取組3「成果の発信」: シンポジウムの内容検討

3	令和4年3月5日(土) 会議 10:00~12:30	2.5時間	学習院大学中央教育 研究棟508教室	<p>安達絵美子、岡田麻矢、後藤芳行、下条由紀子、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、米勢治子、金田智子、中上亜樹、杜長俊、唐木澤みどり、地引愛、秋山文菜</p>	<p>1. 2021年度事業の経過報告 (1) 取組1「地域連携体制整備」活動報告 ・ネットワーク会議「日本語ネットとしま」報告 ・「豊島区における日本語学習環境と情報交流に関する実態調査」に関する報告 (2) 取組2「日本語教育の実施」活動報告 (3) 取組4「人材育成」活動報告 (4) 東京芸術劇場との連携に関する報告 3. 取組3(シンポジウム)について 4. 事業評価 5. 今後の事業について</p>
---	-------------------------------	-------	-----------------------	--	---

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>2019年に、学習院大学を拠点として、豊島区の文化商工部学習・スポーツ課生涯学習グループ及び政策経営部企画課多文化共生推進グループとの協働により、区内日本語教育関係機関のネットワークである「日本語ネットとしま」が発足した。この会議体ができることにより、豊島区教育センター、区内日本語教室、国際交流団体、日本語学校、大学、学習支援団体等による情報交換・意見交換・連携協力、豊島区等からの情報提供などが活発化している。また、「日本語ネットとしま」の協力の下、日本語教育機関・組織対象の調査、在住外国人対象の調査を実施済みであり、その結果を踏まえて、区内日本語教育体制における課題についての議論を進めることができた。</p> <p>また、日本語教育の実施において、従来行ってきた公的団体等による出張授業を組み込んだ教室づくりを、2020年度には消防署、雑司ヶ谷体育館等と連携してオンラインでも行うことができています。2021年度は消防署による出張授業を対面で実施し、日本語学習者との直接のやりとりを促進できた。また、東京芸術劇場との新たな連携協力体制を構築した。さらに、区内の日本語学校や日本語教師養成課程を有する教育機関等との情報共有も行き、連携協力体制の強化を探った。</p>
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制



3. 各取組の報告

＜取組1＞【実施期間:令和3年5月27日～令和4年3月18日】											
取組の名称	区内日本語教育連携体制の新たな展開に向けて										
取組の目標	2019年、2020年に区内で実施した調査の結果を踏まえ、豊島区における日本語学習環境整備のための課題を明らかにし、ネットワーク会議「日本語ネットとしま」において、課題解決のための方策の検討、具体的提案の策定を行う。区内日本語教育に関する情報共有、意見交換、連携協力のための相談を積極的に行い、課題解決を目指す。また、2022年度以降の連携体制維持のために、「日本語ネットとしま」の展開方針を具体化する。										
取組の内容	1. 2019年、2020年に実施した2種の調査(区内日本語教育機関・組織を対象とした調査、在住外国人を対象とした調査)の結果について分析をさらに進め、日本語学習環境整備のための課題を明らかにした。 2. 「日本語ネットとしま」会議を開催し、豊島区の担当課、区内の日本語教育関係者(日本語教室、日本語学校、大学、区立教育センター、小学校、学習支援団体、各種NPO法人等)、外国籍住民等が、課題について議論・整理した上で、課題解決のための方策を検討した。特に、感染症や災害が発生しても継続できる環境作りについては、各団体のコロナ禍での活動の工夫を共有した。 3. 「日本語ネットとしま」において、意見交換、情報交換を積極的に行い、課題解決のための方策を議論した。 4. 2019年度作成の「日本語学習環境マップ」の改訂し、翻訳を行い、7言語8種類を作成した。 5. 連携体制維持のための方法を検討し、「日本語ネットとしま」の継続について合意した。										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当しない									
取組による体制整備	多様な団体・組織で構成する「日本語ネットとしま」を基盤として調査を実施し、その過程において、様々な情報交換や意見交換を行ってきた。現在は、実践内容や課題についての開示がかなり積極的になり、活発な意見交換ができるようになった。連携協力体制が整いつつあり、今後、このネットワークを基盤とした環境整備が具体的に進むことが予想される。										
取組による日本語能力の向上	本取組において、日本語習得に関する直接的な効果は目的としない。										
参加対象者	区内日本語教育関係機関・組織及び在住外国人の中心的立場の方々	参加者数 (内 外国人数)	30 人(2 人)								
広報及び募集方法	「日本語ネットとしま」メンバーへの案内文作成・配布・送付。										
開催時間数	総時間 6時間(空白地域 0時間)	内訳 2時間 × 3回									
主な連携・協働先	豊島区文化工商部学習・スポーツ課生涯学習グループ、豊島区政策経営部企画課多文化共生推進グループ、豊島区教育センター、豊島区民社会福祉協議会、各種NPO法人										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
					1					28	29
※該当する場合のみ	ミャンマー(1人)										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年7月30日(金) 10:00~12:00	2	オンライン開催(会場参加:学習院大学西2号館403)	18	昨年度事業の報告と今年度事業について	・昨年度事業の報告(調査、シンポジウム) ・各団体の昨年度の活動及び現状について ・今年度事業の説明 ・今後に向けた情報交換・意見交換	なし	会議参加者18名			
2	令和3年11月26日(金) 15:00~17:00	2	学習院大学中央教育研究棟国際会議場	19	昨年度調査報告と今年度事業(マップ改訂・シンポジウム)について	・昨年度豊島区在住外国籍住民を対象とした調査の集計、分析結果の報告 ・各団体の現在の活動状況について ・豊島区日本語学習環境マップの改訂について ・シンポジウムの予定と内容についての意見交換	なし	会議参加者19名			
3	令和4年2月4日(金) 10:00~12:00	2	学習院大学中央教育研究棟国際会議場	19	シンポジウムの準備と来年度以降の継続について	・豊島区日本語学習環境マップの改訂進捗状況報告 ・シンポジウムについての検討(タイトル、内容他) ・各団体の活動状況と、今後の日本語ネットとしまの継続についての意見交換	なし	会議参加者19名 補助者1名			
計		6		56							

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第2回 令和3年11月26日】

昨年度の第2回会議以来、1年ぶりに対面での会議が開催された。会議の前後にも会議メンバー同士で話し合う姿が見られた。

1. 2020年度に実施した「豊島区における日本語学習環境と情報交流に関する実態調査」の集計、分析をまとめた報告書についての報告を行った。(写真左)
2. 各団体の活動状況について共有。日本語教室はコロナの状況に合わせて、休止や再開、オンライン変更等、対応していた。外国人支援事業や小学校での実践についての報告もあった。(写真右)
3. 「豊島区日本語学習環境マップ」更新について、進捗状況を説明した。QRコードの利用など、情報の変更への対応についても意見交換を行った。
4. シンポジウムについて、タイトルや内容の検討を行った。活動状況報告の中で報告された外国人支援、小学校での実践をシンポジウムで報告することが提案された。



○取組事例②

【第3回 令和4年2月4日】

東京都がまん延防止等重点措置となっていたため、大学の会場とオンラインの併用で開催した。

1. 「豊島区日本語学習環境マップ」更新の進捗状況について報告し、意見交換を行った。
2. シンポジウムで行う報告の内容や日本語教室のパネルディスカッションの内容等について検討した。
3. 各団体の活動状況と、今後の「日本語ネットとしま」の継続についての意見交換を行った。今後の継続については、会議に参加したすべてのメンバーが継続を希望した。

(写真:左)大学の会場での会議の様子 (写真:右)オンライン参加の様子



(2) 目標の達成状況・成果

・2019年、2020年に区内で実施した調査の結果を踏まえ、豊島区における日本語学習環境整備のための課題を明らかにすることができた。

日本語教育機関への調査結果からは、区内の日本語教室は9教室と数としても十分ではなく、曜日や時間に偏りが見られること等がわかった。一方で、外国籍住民対象の調査結果からは、学習したいにもかかわらず学習していない理由の第1位が「仕事のため日本語を学ぶ時間的余裕がない」ことであり、「日本語教室の情報がない」「どうやって勉強したらよいか分からない」「金銭的余裕がない」「日本語教室の時間が合わない」が上位6位以内に挙げられた。また、日本語能力の4技能毎の自己評価において、どの技能においても「ほとんどできない」と答えている人の7割前後が日本語を学習していないことも明らかとなった。このことから、時間、場所、方法等において多様な学習環境を用意すること、特に、初期の日本語教育の場を確保することが重要な課題であることがわかった。さらに、外国籍住民対象の調査において「多文化共生のあり方」を選ぶ項目についての回答で一番多かったのは「外国人と日本人が交流する機会を作ること」で、回答者の4割近くが選んでいた。外国籍住民自身が日本人との交流を望んでおり、交流の機会を増やすことも日本語教育ともかかわる課題として今後実現していく必要がある。

・「豊島区日本語学習環境マップ」をより見やすく改訂し、必要な人に届けるための情報提供を行った。

「豊島区日本語学習環境マップ」のレイアウトを変更し、一覧表の形式を取り入れた。豊島区HPに掲載されている日本語教室の情報がすぐにわかるようにQRコードを掲載したり、大学国際センターのHPに「豊島区日本語学習環境マップ」のページを新たに作り、改訂版を公開するとともに、今後の改訂にも対応できるようにした。豊島区在住外国人の状況に合わせた7言語8種類で今回も作成することにより、多くの区内在住外国人に対応できるものと期待する。日本語ネットとしまのメンバーに知らせ、シンポジウムでも報告した。今後、外国人と関わる団体へ改訂の情報をお知らせしていく予定である。

・ネットワーク会議「日本語ネットとしま」において、協力関係が深まり、課題解決のための案を出し合った。

今年度もコロナの影響が続き、状況に応じて、オンライン、対面での開催を検討しながら、予定通り3回の会議を行うことができ、区内日本語教育に関する情報共有、意見交換、連携協力のための相談を積極的に行うことができた。特に、会議体を超えて広く今年度の成果を発表し、意見交換を行うシンポジウムのテーマや内容について意見交換を行いながら準備し、実施できたことにより、協力関係が深まった。そのシンポジウムにおいて、登壇した団体より提案が発表された。

・「日本語ネットとしま」の今後について、会議で検討し、継続されることになった。

今年度の最後の会議(日本語ネットとしま第3回会議)において、今後について各団体の意見表明を行い、参加団体すべてが継続を希望したことから、今後の継続が決まった。その理由として、「他の団体と知り合える機会」「会議に参加するだけで刺激になる」「横のつながりは大切」等、つながりの必要性への認識から継続への期待が多かった。

(3) 今後の改善点について

・2019年度、2020年度調査の集計、分析を通して、課題を明らかにすることができ、日本語ネットとしまやシンポジウムにおいて、課題解決のための多くの提案を得ることができたが、案を実現していくための具体化には至らなかった。今後は、その提案をさらに検討し、課題解決のために実践していくことが必要である。

・豊島区の日本語教育ネットワークとして、「日本語ネットとしま」で様々な情報交換、意見交換を行うことができたが、コロナの影響も大きく、年3回の会議以外での情報交換、意見交換の場を作ることは十分でなかった。来年度以降も継続されることになったが、その点も踏まえ、この連携体制維持のために、どのように各団体と協力し、どのように分担して行うかについて議論し、より連携を深めていきたい。

・「豊島区日本語学習環境マップ」についても、今後の改訂についての検討を行う必要がある。「日本語ネットとしま」でどのように行うかを議論し、継続的な改訂が行えるように検討したい。周知のための方策についても、さらなる検討と具現化が必要である。

<p style="text-align: center;"><取組2>【実施期間:令和3年6月5日~令和4年2月26日】<教室A:わくわくクラス></p>											
取組の名称	活動の名称:継続的な学習を可能にする日本語教室づくり										
取組の目標	1. 基礎的な日本語能力を持たない外国籍住民が、社会の一員として生活するために必要となる日本語の基礎を身に付け、日常生活の中で日本語を使えるようになる。 2. 外国籍住民が公的機関、各種サークル等との活動を通じ、コミュニティの中で自律的・協働的に学び続けるための能力を培い、催し等に主体的に参加したり、日本人とのちょっとしたやりとりを行うようになる。 3. 日本語及び日本社会について理解を深める。										
取組の内容	教室A(わくわくクラス)では、以下のことを行った。 1. 日本語能力の育成:これまでに「学習院大学わくわくとしま日本語教室」で開発した教材を基礎として、多様な背景、ニーズ、生活環境に配慮した活動や教材を作成した。 2. 学ぶ力の育成:2016年度から3年間実施したブラッシュアップ講座(教育人材育成のための研修)での学びを生かし、学習者が自身の日本語学習や日本語使用を自律的に管理することを促すため、適切な評価システムや本教室作成のポートフォリオを活用した。学びを促す各種リソース、文化庁や国際交流基金が開発したICT教材やスマホ等機材も積極的に活用した。 3. コミュニティの中での学び:コミュニティの参加・活用・形成を行いながら、社会の一員であることを意識できる活動、他者につながる活動を通じて、対面でのやりとりの重要性を実感できる活動を取り入れる予定であったが、コロナ禍ということもあり、地域のサークル、NPO法人などにご協力をいただくことはできなかった。しかし、東京芸術劇場とのワークショップを実施し、対面でのやりとりを活性化させると同時に、日本語教室以外のコミュニティに参入するきっかけを作った。										
空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当しない										
取組による体制整備	感染症拡大により、当初予定していた連携授業を行うことが困難であったが、東京消防庁豊島消防署目白出張所との連携授業や東京芸術劇場との連携授業、ワークショップを実施することができた。出身国・母語が異なる人々と言葉や文化の違いを越えた関わりを通じ、個人レベルの相互理解が進み、連携体制を強化するための下地が整ったと考える。										
取組による日本語能力の向上	1. 簡単な挨拶以外は発することができず、ひらがな・カタカナの読み書きも容易ではなかった学習者が、人の助けを借りつつも、買い物や緊急時など生活場面において必要な日本語能力の基礎を身に付けることができたと考える。継続的に参加した学習者について日本語能力の伸長を「とよた日本語能力判定」を基にした「わくわくとしま日本語教室日本語能力判定レベル表」で観察すると、レベル0(入門段階)からレベル1(基礎段階)もしくはレベル2(要支援段階)、レベル1からレベル2に向上したと判定できる。 2. 学習ポートフォリオを使用し、教室外での日本語学習状況を教室内で共有した。この活動や事後アンケートによって、学習時間や日本語使用機会の増加がわかった。教室外の学習機会等の増加を促進できたことは、日本語能力向上の一助となったと考える。										
参加対象者	・豊島区及び近隣区域に暮らす外国人(特に、これまで学習の機会がなく日本語を学んだことがない人) ・<特別授業>専門職の日本人(消防士)	参加者数 (内 外国人数)		総数 12人 (受講者 10人)							
広報及び募集方法	チラシ作成・配布・配置(豊島区窓口、区内保育園、幼稚園、小学校、中学校、区内の外国人が多く利用するレストラン、外国人が多く利用する病院等)。豊島区ホームページ、大学ホームページ及びFacebookによる周知。										
開催時間数	総時間 78 時間 (空白地域 0 時間)	内訳		2.5 時間 × 30 回		3 時間 × 1 回					
主な連携・協働先	東京消防庁豊島消防署目白出張所、雑司が谷地域文化創造館、東京芸術劇場										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	6			1							7
※該当する場合のみ	オーストラリア(1人)、アメリカ(1人)、フランス(1人)										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年6月5日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-403	2	あいさつ	①【教室B(ぐんぐんクラス)と合同】自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、短期の目標を設定した。 ②近所の人とあいさつを交わし、簡単に天気の話ができることを目標とした。時間帯や相手によって変化するあいさつの表現や、今の天気に関して簡単に話す表現の練習をした。最後は、ペアを何度も変えて、あいさつをし合った。	【前半】 秋山文菜 【後半】 澤口瑠璃	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名			
2	令和3年6月12日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-403	1	買い物(対面)	コンビニや商店街のお店などで対面で買い物できることを目標とした。物の数え方や、会計時に「箸」「袋」などの要不要を伝える練習を行った。最後は、学習者と講師でロールプレイを行った。 【読み書き】五十音図から目的のひらがな・カタカナを探したり、自分の名前をカタカナで書く練習を行った。	【前半】 王菲 【後半】 林丹	—			
3	令和3年6月19日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-403	2	道聞き(建物内)	デパートやスーパーで、売り場やトイレ等施設の場所を尋ねてたどり着くことを目標とした。行先を尋ねる表現や、階数や方向を示す表現の練習を行った。最後は学習者と講師で、実際の建物を使ってロールプレイを行った。 【読み書き】スーパーの売り場案内の看板にある、濁音・半濁音が含まれる言葉を練習した。最後は、売り場の看板を見て商品の場所を読み取る活動を行った。	【前半】 張藝韋 【後半】 呉ウンイ	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名			

4	令和3年6月26日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-403	5	電車・バス 【読み書き】駅名やバス停の、拗音が含まれる言葉を見て、正確に発音する練習を行った。	秋山文菜	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
5	令和3年7月3日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-303	4	ごみ 【読み書き】長音の表記を見て、正確に発音する練習を行った。また、ゴミ袋に特殊なごみの種類(「キケン」「スプレー」等)を書く練習を行った。	澤口瑠璃	保育1名 【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
6	令和3年7月10日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-403	4	レストラン (入店・テイクアウト) ①レストランに入店し、テイクアウトできるかどうか尋ね、購入できることを目標とした。テイクアウトの可否や、待ち時間を尋ねる表現を練習した。最後は、学習者と講師でロールプレイを行った。 ②【教室B(ぐんぐんクラス)と合同】自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、数年後を見据えた長期、中期の目標を設定した。	【前半】 秋山文菜 【後半】 林丹	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
7	令和3年7月17日(土) 9:30~12:00	2.5	雑司が谷地域文化創造館	5	レストラン (注文・会計) 【読み書き】カフェのメニューを見て、特に長音の有無に注意しながら食べたいものを注文するタスク活動を行った。	【前半】 澤口瑠璃 【後半】 冷俊俊	保育1名 【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
8	令和3年7月24日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-403	3	あいさつ2 (外国人がよく聞かれる質問) 【読み書き】駅や街の看板等にある、促音が含まれる言葉の表記を見て、正確に発音する練習を行った。	【前半】 張藝韋 【後半】 呉ウニイ	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
9	令和3年7月31日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-403	5	ドラッグストア 【読み書き】これまでに学習した日本語の読み書きの総合練習として、ドラッグストアにある商品や、店内の案内看板を読み取る練習を行った。	【前半】 冷俊俊 【後半】 王菲	保育1名 【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
10	令和3年8月7日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1-315	5	ロールプレイ大会 (復習) ②【教室B(ぐんぐんクラス)と合同】日本語学習を自律的、継続的に実施するために、自分で立てた短期目標の達成度を自己評価した。また、第10回までで、できるようになったこと、まだ難しいことを振り返り、学習ポートフォリオに記入した。	秋山文菜	指導補助1名 指導補助1名 指導補助1名 保育1名 【前半】 通訳(中国語)1名
11	令和3年8月28日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-201	5	状況にあったあいさつ ②スーパーや病院などで偶然知り合いに会ったときにあいさつと簡単な会話ができることを目標とした。あいさつや気遣いのひとことなどの表現を練習し、最後は学習者同士でロールプレイを行った。	【前半】 秋山文菜 【後半】 冷俊俊	指導補助1名 保育1名

12	令和3年9月4日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-201	6	地震	災害発生時に避難するために適切な行動をとれることを目標とした。ニュース速報などでよくある表現の聞きとり練習を行い、簡易的な避難訓練を行った。また、防災マップを用いて、自宅や勤務先付近の避難場所を確認した。 【読み書き】第10回までで学習したひらがな・カタカナの総合練習として、カフェのメニューを読み、欲しいものを声に出して注文するタスク活動を行った。	澤口瑠璃	指導補助1名 保育1名
13	令和3年9月11日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-201	4	防災グッズ	防災の概念を理解し、必要な防災グッズを購入できることを目標とした。使い方がわからない時に店員に尋ねる表現を練習し、ロールプレイを行った。最後は自分の非常用持ち出し袋に入れるものを考え、学習者同士で共有した。 【読み書き】これまで学習した語彙を聞いて、ひらがな・カタカナで正しく書き取るとい、簡易的なディクテーションの活動を行った。	秋山文菜	指導補助1名 保育1名
14	令和3年9月18日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-201	6	好きなものについて話す	趣味や好きなものについて会話できることを目標とした。相手の趣味を尋ねたり、質問に答える表現を練習した。また、相手の返答に相槌や簡単な感想を述べる表現も練習した。最後は学習者同士で何度も練習をし、ペアで全体の前で会話を発表した。 【読み書き】申込書を見て、それぞれの項目に何を書くべきかを読み取る練習を行った。	澤口瑠璃	指導補助1名 保育1名
15	令和3年9月25日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	3	交番 (忘れ物センター)	交番や忘れ物センターで紛失物と紛失状況について簡単に説明できることを目標とした。なくした財布の色や形、特徴に関する表現を練習した。最後は、教師と学習者でロールプレイを行った。	【前半】 張藝章 【後半】 王菲	保保育1名 【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
16	令和3年10月2日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	5	話のきっかけ	①人間関係を構築するきっかけを作るために、顔見知りの人に簡単な話題を振り、会話をできることを目標とした。最近の天気の話や、相手の持ち物を褒めたりする際の表現などを練習した。最後は学習者同士で会話を作り、感情表現も意識しながら全体の前で発表した。 ②【教室B(ぐんぐんクラス)と合同】第11回で立てた短期目標が達成されているか確認した。達成状況によって、短期目標を再設定した。	秋山文菜	指導補助1名 保育1名
17	令和3年10月9日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-303	4	病院(初診受付) (東京芸術劇場連携授業)	初診受付で手続きができることを目標とした。いくつかのウォーミングアップの活動の後、身体のパーツや診療科、症状に関する語彙・表現を身体の動きを使って練習した。最後は、初診受付のやりとりのロールプレイを、ゲーム的要素を入れつつ、動作をつけて行った。	芸術劇場関係者 <無償>	指導補助1名
18	令和3年10月16日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	6	病院(診察)	病院で診察を受ける際のやりとりができることを目標とした。症状の表現や医師からの指示表現を聞いてわかる練習をし、最後は講師とロールプレイを行った。 【読み書き】日本語の生年月日の表し方を学習し、申込書に自分の生年月日を正しく記入する練習を行った。	冷俊俊	指導補助1名 保育1名
19	令和3年10月23日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	5	消防・救急	119番に電話し、消防車及び救急車を呼べることを目標とした。名前や住所、状況に関する質問を聞き、答える練習を行った。最後は、講師と学習者でロールプレイを行った。 【読み書き】申込書の各項目に、正しく情報を記入する練習を行った。	呉ウニイ	指導補助1名
20	令和3年10月30日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	8	消防・救急 (東京消防庁連携授業)	【前半】119番に電話し、消防車を呼べることを目標とした。東京消防庁目白出張所の消防士と学習者でグループになり、通報訓練を行った。 【後半】教室B(ぐんぐんクラス)と合同】消防士に火事や救急に関わる質問をした。また、消防車や緊急出動時の準備の様子などを見学した。	【前半】 呉ウニイ 【後半】 秋山文菜	保育2名 【後半】 指導補助1名 通訳(中国語)1名

21	令和3年11月20日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	5	食事に誘う	<p>①【教室B(ぐんぐんクラス)と合同】第20回までで、できるようになったこと、まだ難しいことを振り返った。短期目標の達成状況を確認し、新たな短期目標を設定した。</p> <p>②近所の人や職場の人を食事に誘うことを目標とした。相手を誘ったり、誘いに返答する際の表現を練習した。最後は何度も相手を変えて、学習者同士で誘い合う会話をした。</p>	<p>【前半】 秋山文菜</p> <p>【後半】 呉ウンイ</p>	<p>指導補助1名 保育1名</p>
----	------------------------------	-----	-----------------	---	-------	---	---	------------------------

22	令和3年11月27日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	3	郵便局	希望する郵送方法で郵便物を出せることを目標とした。国内で郵便物を送る際の荷物到着日程の確認、予算内での郵送方法の選択など、郵便局員とのやり取りを練習した。最後は、学習者と講師でロールプレイを行った。 【読み書き】スマートフォンやパソコンで日本語を入力する練習を行った。	【前半】 地引愛 <無償> 【後半】 呉ウナイ	指導補助1名
23	令和3年12月4日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	4	プレゼント購入 (花屋)	花屋で花束を注文できることを目標とした。色や購入目的に関する表現などを練習し、最後は教師とロールプレイを行った。 【読み書き】メッセージカードにお礼やお祝いなどの簡単なメッセージを書く活動を行った。	秋山文菜	指導補助1名 保育1名
24	令和3年12月11日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	5	試着	服や靴を試着して、購入の判断ができることを目標とした。試着の依頼表現や、欲しいサイズや色を尋ねる表現などを練習した。最後は、学習者と講師でロールプレイを行った。 【読み書き】イベントのチラシを見て、申し込みが必要かどうかを読み取る練習を行った。	田村梨奈	指導補助1名
25	令和3年12月18日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	6	長期休暇の予定を話す	相手との関係を考慮しつつ、休暇の予定について会話できることを目標とした。相手の予定を尋ねたり、自分の予定を話す表現を練習した。最後は、学習者同士で長期休暇の予定を聞き合う活動を行った。 【読み書き】オンラインの申込フォームの項目内容を読み取り、正しく情報を入力する活動を行った。	呉ウナイ	指導補助1名 保育1名
26	令和3年12月25日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	5	自己紹介と歌 (東京芸術劇場連 携授業)	日本語を楽しみながら、自分のことを話したり、相手の話を聞くことを目標とした。ウォーミングアップのための活動の後、「切手のないおくりもの」の歌を理解し、替え歌を作ったり、動作をつけて歌う活動を行った。最後はトークショーの形式で、自己紹介と自分がプレゼントを贈りたい相手と物について発表した。	芸術劇場関係者 <無償>	指導補助1名 保育2名
27	令和4年1月8日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-301	5	お土産を渡す	相手との関係を考慮してお土産を渡し、行った場所の感想を簡単に伝えられることを目標とした。簡単にお土産を紹介する表現や、感想を伝える際に使う形容詞を練習した。最後は学習者同士でお土産を渡さう活動を行った。 【読み書き】これまで学習した語彙や表現を聞き、正しく書き取る活動を行った。	呉ウナイ	指導補助2名 保育1名
28	令和4年1月15日(土) 10:00~12:30	2.5	雑司が谷地 域文化創造 館	5	自国のお土産 紹介	実物や写真を見せながら、自国のお土産を紹介できることを目標とした。紹介する際の表現を練習し、あらかじめ用意されたお土産を使って、簡単な会話を行った。また、翌週の発表に向けて、講師や補助者がサポートしながら、自国のお土産を紹介するための原稿を作成する活動を行った。	田村梨奈	指導補助3名 保育1名
29	令和4年1月22日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 北2-10階 大会議室	3	自国のお土産 紹介 (文化発表会)	実物や写真を見せながら、自国のお土産を紹介する文化発表会を行った。第28回で作った原稿をもとに、お土産紹介の練習をした。発表の際は、学習者や補助者による質疑応答をおこなった。 【読み書き】発表を聞いた感想をメッセージカードに書き、学習者同士で送り合う活動を行った。	三戸貴史	指導補助2名 保育1名
30	令和4年1月29日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 北2-10階 大会議室	5	自己紹介	①初めて会った人と自己紹介をし合えることを目標とした。仕事や住んでいる地域を尋ねたり、答えたりする表現を練習した。さらに、名前や出身地、来日に関する質問・返答の表現を復習した。最後は学習者同士で何度も相手を変えて会話する活動を行った。その際は会話の流れを固定せず、これまで学習した表現を自由に使って会話を続けるようにした。 ②自分で立てた短期目標の達成度を自己評価した。また、第30回までにできるようになったこと、まだ難しいことを振り返り、中期・長期目標を設定した。	青木身祐	指導補助2名 保育2名

31	令和4年2月26日(土) 13:30~16:30	3	東京芸術劇場 ギャラリー2	3	東京芸術劇場連携 「多文化共生日本語ワークショップ」	【教室B(ぐんぐんクラス)と合同】 ①ミニツアー:やさしい日本語による説明を聞きながら、劇場を見学した。 ②「日本語とつながるワークショップ:このコトバは、どんなカタチですか?」:ことばを使わずに順番に並んだり、長い竹を指で支え合って移動したりといったアイスブレイク活動をした後、様々な「コトバ」(恐竜、日本の春等)の形をチームで表現するという活動を行った。	柏木俊彦 <3H> 関根好香 <1H>	保育(2H)1名
計		78		137				

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第17回 令和3年10月9日/第26回 令和3年12月25日】

「コミュニティの参加・活用・形成」を行う活動の一環として、東京芸術劇場との連携でワークショップを実施した。第17回は、クラスのコースの一部として「病院の初診受付」をテーマとした授業を実施した。既存の自主作成教材をベースに、言葉だけでなく身体全体で表現する活動を多く取り入れた。第26回は、クラスのコース内容とは切り離れたテーマで実施した。「切手のないおくりもの」の歌を、学習者が歌ったり体を動かしたりして表現する活動を行った。さらに、自分が贈りたいプレゼントと相手について日本語で話し、「切手のないおくりもの」の替え歌を歌った。学習者は贈りたいプレゼントと相手を具体的に想像し、自分の言葉で言語化していた。授業の後半では、学習者がスポーツ選手や芸術家などになりきり、トークショーのゲストとして、名前や出身地、贈りたいプレゼントといった質問に答えるという活動を行った。どちらの授業でも歌や音楽、ダンスなどが大いに取り入れられた。始めは恥ずかしがっていた学習者も、授業が進むにつれて積極的に活動に参加し、表現する様子が見られた。クラスの雰囲気非常に良く、学習者同士、学習者と講師のやりとりが非常に活発であった。対面でのやりとりが活性化されたと同時に、学習者が日本語教室以外のコミュニティに参入するきっかけにもなり、非常に有意義な授業であった。

(写真:左)第17回の授業で、身体を使って症状を表現している様子

(写真:中央・右)第26回の授業で、トークショーを行っている様子



○取組事例②

【第29回 令和3年1月22日】

「社会の一員となることを意識できる活動」の一環として、文化発表会を行った。学習者たちは、日本で生活し、コミュニティの参加や形成を行う過程で自分の文化を紹介する機会に遭遇することがある。その備えとして、自国のお土産を紹介する発表会を開催した。これまで、学習者は決められた日本語表現を覚えることで、目標行為の達成を目指すことがほとんどであった。この発表会は、学習者がお土産紹介をするにあたり、自分の伝えたい内容を、自分ができる日本語で考え、発表するという目的で実施した。発表の際には、学習者が事前に用意した写真を指し示しながら説明する様子が見られたほか、紹介物を実際に持ってきた学習者もいた。学習者一人一人の発表に対し質疑応答を行った。他の学習者や補助者から多くの質問が出て、互いの文化を理解し合う様子が見られた。発表会のあとは、「読み書き」の授業として、お互いに発表の感想をメッセージカードに書いて送り合う活動を行った。

(写真:左)学習者が実物を見せながらフランスのお土産を紹介する様子

(写真:中央)学習者が用意した写真を指し示しながら中国のお土産を紹介する様子

(写真:右)学習者が発表に対するメッセージカードを受け取っている様子



(2) 目標の達成状況・成果

1. 基礎的な日本語能力の獲得
・セッション終了時に学習者にアンケートを実施し、継続的に授業に参加していた7名のうち6名から回答を得た。アンケート結果によると、教室に来るようになって日本語が「かなり上手になった」と答えた学習者が1名、「上手になった」が4名、「少し上手になった」が1名で、程度の差はあるが全ての学習者が「上手になった」と日本語能力の向上を感じていることがわかった。
・上述の学習者7名の教室参加時と終了時の日本語能力を、「わくわくとしま日本語教室日本語能力判定レベル表」を用いて教師の観察によって判定した。このレベル表は当教室が「とよた日本語能力判定」の尺度を参考に開発したものである。教室参加時の教室A(わくわくクラス)の学習者は、日本語を理解したり、話す・書くことがほとんどできない「レベル0:入門段階」であった。コースを終え、ほとんどの学習者は、周囲の支援に基づき、経験頻度の高い場面において日本語で行為を達成することができる「レベル1:基礎段階」に達したと考えられる。中には、周囲の支援に基づき、経験頻度が低い場面において日本語で行為を達成することができる「レベル2:要支援段階」程度に届きそうな学習者もいた。一方で、何人かの学習者はレベル1に到達できず、レベル0の段階のままであったが、例えば授業内でスクリプトを見ずにゴール会話が話せるようになったり、ひらがな・カタカナが読めるようになったりなど、教室参加開始時と比べると確実に日本語能力は向上している。
・授業時間や休み時間の観察からも、学習者の日本語能力の向上がうかがえた。コース開始時の学習者は、挨拶しか話せない、あるいは自分の名前や出身地など基本的な自身に関する質問にのみ答えられるという程度であった。コースが進むにつれ、教室に続けて来ていた学習者は、ゆっくりとはっきりと話されれば、自分自身のことや日常に関する内容の質問を理解し、答えられるようになった。また、単語をつなげて話すのではなく、短い文で話せるようになった学習者もいた。
・ある学習者は、授業で学習したことを使って自分の職場の日本人に話しかけているうちに、日本人の方からも話しかけてもらえるようになったという。その学習者が周囲の日本人に、以前よりも日本語ができるようになったと認識されているといえるだろう。

2. 日常生活での日本語使用
・上述の学習者アンケートの結果によると、教室に来る前よりも日本語を「かなり使うようになった」と答えた学習者が2名、「使うようになった」が1名、「少し使うようになった」が3名で、程度の差はあるが、全ての学習者が日常生活での日本語の使用頻度が増えたと感じていることが分かった。
・毎回の授業では、学習ポートフォリオを用いて学習者が「1週間の日本語学習と達成度」を振り返り、記録する時間を設けている。その際、ほとんどの学習者が、「買い物」「レストラン」「趣味について話す」など、教室の外でも授業で学習した内容を実践したり、日本人との会話の中で使ったりしていた。
・授業では習っていないことでも、学習者は積極的に生活の中で日本語を使っていた。例えば、ある学習者は旅行先でホテルのフロントに日本語で要望を伝えたという。その後の会話を続けるのは難しかったようだが、日本語を話そうと挑戦する姿勢がうかがえた。
・教室A(わくわくクラス)の学習者のほとんどは、ひらがな・カタカナの読み書きが十分にできない。そのため、会話中心の授業と並行して日本語の読み書きの授業も行っている。何人かの学習者は、コースが進むにつれて学習ポートフォリオを日本語で記入したり、年末には年賀状を日本語で書いてきたりなど、読み書きにおいても日本語を使用するようになった。

3. コミュニティの参加・活用・形成
・学習者は授業後に学習者同士で食事に行ったり、休みの日にスキー旅行に行ったりもしているようだった。教室がコミュニティとして機能していたといえるだろう。
・東京消防庁や東京芸術劇場との連携授業を実施し、教室の外にも目を向けてもらえるよう促した。ある学習者は、趣味の山登りサークルに参加し、日本人と積極的に関わろうとしているようだった。また、コースの最終日に「ごみ拾いなどのボランティア活動に参加したい」と言った学習者もいた。教室での様々な活動が、学習者が教室外のコミュニティに参入する意識や興味を持つことにつながったと考える。

4. 自律的・協動的に学び続けるための能力
・毎回の授業で実施していた学習ポートフォリオで、何人もの学習者が毎日の自身の日本語学習について記録していた。教室に来たばかりの頃は「勉強していない」と言っていた学習者も、他の学習者の影響を受けてか、週に数日、30分など短い時間であっても学習を続け、記録するようになった。
・学習者同士で日本語の学習について情報を共有したようで、ほとんどの学習者が同じ言語学習アプリを使うようになっていたり、自分に合った学習方法の模索を協動的に行っていた様子が見られた。「○○さん(他の学習者)のように、私も毎日勉強する」と目標を話していた学習者もいた。

5. 日本語及び日本社会について理解
・動詞・形容詞の活用や疑問詞など、日本語の基本構造に関わることを理解していることが、日本語の使用を促進すると考える。そのため、シラバスデザインの段階から「いつ」「どこ」などの疑問詞を何度も取り入れることを計画し、実施した。また、学習ポートフォリオ記入時や休み時間等のやりとりでも、講師は積極的に疑問詞を使って学習者に質問するようにし、継続的に参加している学習者は疑問詞を使った質問を理解し、答えられるようになった。一方で、動詞・形容詞の活用については、学習者は形が変化することは理解しているが、活用ルールについては、理解が不十分であった。これは、シラバスで取り入れることを決めていても、活用ルールに気づく活動を授業で取り入れることができなかったからである。その理由は、講師が活用ルールの理解を促すにはどのような活動をすればいいかわからないという指導力不足が挙げられる。来年度は、教材に活用ルールを掲載したり、参考にできるツールやウェブページを紹介するなど、学習者の活用ルールへの気づきを促しつつ、講師の指導力向上を目指し、文法に気づく活動に関する研修を行うなどして、日本語の基礎構造に対する学習者の理解を促したい。
・各セッション(10回の授業で1セッション)の最終回で行った学習ポートフォリオでは、学習者がそのセッションの学習や、学習者自身の実生活での実践を振り返り、記録した。学習者は授業で学習し実践したこととして「ごみの分別」「防災・非常用持出袋」などを挙げていて、日本社会・地域におけるルールについて理解を深めたことがわかった。

(3) 今後の改善点について

1. 基礎的な日本語能力の習得と自律的・協動的に学び続けるための能力の養成について
・継続的に参加していた学習者は日本語能力の向上が大いに見られたが、コースの途中から参加した学習者や、欠席が多かった学習者には、能力の向上がそれほど見られなかった。特にコースの後半になると、途中参加の学習者は、これまで学習を続けてきた学習者との能力の差がさらに広がり、それによって余計に授業についていけず、教室に来なくなってしまうこともあった。生活者のための日本語教室として、今後は途中参加や、やむを得ず欠席が続いた学習者でも継続して来やすくなる教室にしていく必要があると考える。日本語能力に差があっても、学習者それぞれに学びが得られるような工夫を考え、一回一回の授業の達成感や満足感を高められるようにしたい。

2. コミュニティの参加・活用・形成について
・コロナ禍ということもあり、地域のサークル、NPOなどに協力してもらうことを断念した。自らサークルに参加し始めた学習者もいる一方、参加したいが、どうすればいいかわからないという学習者もいた。どんなものがあるのか、参加の条件はあるか、参加するためにどうすればいいか等、情報の収集と提供、申込に関しては必要に応じて授業にも組み込むべきだった。継続的に学習者が参加できるような団体の模索が必要だった。

＜取組2＞【実施期間:令和3年6月5日～令和4年2月26日】＜教室B:ぐんぐんクラス＞												
取組の名称	活動の名称:継続的な学習を可能にする日本語教室づくり											
取組の目標	1. 基礎的な日本語能力を持たない外国籍住民が、社会の一員として生活するために必要となる日本語の基礎を身に付け、日常生活の中で日本語を使えるようになる。 2. 外国籍住民が公的機関、各種サークル等との活動を通じ、コミュニティの中で自律的・協働的に学び続けるための能力を培い、催し等に主体的に参加したり、日本人とのちょっとしたやりとりを行うようになる。 3. 日本語及び日本社会について理解を深める。											
取組の内容	教室B(ぐんぐんクラス)では、以下のことを行った。 1. 日本語能力の育成:これまでに「学習院大学わくわくとしま日本語教室」で開発した教材を基礎として、多様な背景、ニーズ、生活環境に配慮した活動や教材を作成した。 2. 学ぶ力の育成:2016年度から3年間実施したブラッシュアップ講座(教育人材育成のための研修)での学びを生かし、学習者が自身の日本語学習や日本語使用を自律的に管理することを促すため、適切な評価システムや本教室作成のポートフォリオを活用した。学びを促す各種リソース、文化庁や国際交流基金が開発したICT教材やスマホ等機材も積極的に活用した。 3. コミュニティの中での学び:コミュニティの参加・活用・形成を行いながら、社会の一員であることを意識できる活動、他者につながる活動を通じて、対面でのやりとりの重要性を実感できる活動を取り入れる予定であったが、コロナ禍ということもあり、地域のサークル、NPO法人などにご協力いただくことを断念した。しかし、東京芸術劇場とのワークショップを実施し、対面でのやりとりを活性化させると同時に、日本語教室以外のコミュニティに参入するきっかけを作った。 4. 社会に発信する能力の育成:一般日本人(豊島区住民、学習院大学学生)とやりとりをしながら課題を達成する活動を取り入れ、相互理解を深めると同時に、社会に向けて発信するための能力を伸ばした。											
空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当しない											
取組による体制整備	感染症拡大により、当初予定していた連携授業を行うことが困難であったが、東京消防庁豊島消防署目白出張所との連携授業や東京芸術劇場との連携授業、ワークショップを実施することができた。出身国・母語が異なる人々と言葉や文化の違いを越えた関わりを通じ、個人レベルの相互理解が進み、連携体制を強化するための下地が整ったと考える。 また、豊島区立図書館から利用申請書、豊島区環境清掃部ごみ減量推進課からごみ分別表、豊島区総務部防災危機管理課からハザードマップを教材に掲載する許可をいただいた。掲載許可伺いを通じ、外国人や日本語学習に対する理解が促進されたと思われる。											
取組による日本語能力の向上	1. 生活に関する日本語だけでなく、人間関係を構築するための日本語、社会の一員としての日本語を身に付けることができたと考える。継続的に参加した学習者を日本語能力の伸長を「とよた日本語能力判定」の基にした「わくわくとしま日本語教室日本語能力判定レベル表」で観察すると、レベル1+(基礎段階)からレベル2(要支援段階)または3(自立段階)、レベル2からレベル3と判定できるような日本語能力の向上があった。 2. 学習ポートフォリオを使用し、教室外での日本語学習状況を教室内で共有した。この活動や学習者のアンケートによって、学習時間の増加や日本語使用機会の増加がわかった。教室外の学習機会等の増加を促進できたことは、日本語能力向上の一助となったと考える。											
参加対象者	・豊島区及び近隣区域に暮らす外国人(日本についての知識は豊富だが、一人で行うことが限られている人) ・＜特別授業＞専門職の日本人(消防士)					参加者数 (内 外国人数)		総数 29人 (受講者 27人)				
広報及び募集方法	チラシ作成・配布・配置(豊島区窓口、区内保育園、幼稚園、小学校、中学校、区内の外国人が多く利用するレストラン、外国人が多く利用する病院等)。豊島区ホームページ、大学ホームページ及びFacebookによる周知。											
開催時間数	総時間 80 時間 (空白地域 0 時間)			内訳		2.5 時間 × 30回		2 時間 × 6回(取組4と合同)		3 時間 × 1回		
主な連携・協働先	東京消防庁豊島消防署目白出張所、雑司が谷地域文化創造館、東京芸術劇場、豊島区立図書館、豊島区環境清掃部ごみ減量推進課、総務部防災危機管理課											
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計	
	9	2			3	1			3		18	
※該当する場合のみ	台湾(2人)、イギリス(2人)、香港(1人)、カンボジア(1人)、ミャンマー(1人)、バングラデシュ(1人)、インド(1人)											
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	令和3年6月5日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 西2-405	9	自己紹介	①【教室A(わくわくクラス)と合同】自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、短期の目標を設定した。 ②仕事や保護者会など場面に合わせた自己紹介ができることを目標とした。場面に合わせた話題を考え、その言い方を練習した。最後は、ペアを何度も変えて、自己紹介をし合った。	【前半】 関根千紘 【後半】 青木身祐	保育1名 【前半】 指導補助1名 通訳(英語)1名 通訳(中国語)1名 【後半】 指導補助1名				
2	令和3年6月12日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 西2-405	11	美容院・理容院	美容院や理容室で、希望の髪形を依頼できることを目標とした。顔のパーツを利用した希望の伝え方や切り終えた時の確認で気になったことを伝え方を練習した。最後に、美容師と客役でペアでロールプレイを行った。 【読み書き】美容院や理容室のメニューのカタカナの単語が何を表しているか読み取る練習を行った。	【前半】 周ジョセイ 【後半】 三戸貴史	保育1名 【前半】 指導補助2名 【後半】 指導補助2名				
3	令和3年6月19日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 西2-405	11	病院の予約	病院、特に歯医者との予約ができることを目標とした。希望日時の伝え方や歯に関わるトラブルの表現を練習した。最後は、ペアで受付と患者役に分かれ、ロールプレイを行った。 【読み書き】様々な病院のホームページから予約の有無を読み取る活動を行った。	【前半】 関根千紘 【後半】 オウシショウ	保育2名 【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名				

4	令和3年6月26日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-405	9	病院の診察	ワクチン接種の問診に対応できることを目標とした。問診や接種の際に聞かれる質問を聞き分ける練習をした。日本語指導者が医者役になり、ロールプレイを行った。 【読み書き】問診票によくある質問と漢字を読み取り、問診票を記入した。	【前半】 関根千紘 【後半】 オウシショウ	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
5	令和3年7月3日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-304	6	台風にも備える	台風や洪水などの災害時に、適切に避難できることを目標とした。ハザードマップの読み方を練習し、自宅から自宅近くの避難所までのルートを探す活動を行った。また、防災無線を聞いて、内容を理解する練習を行った。 【読み書き】テレビの速報から住んでいる地域の名前を探し、警報の有無を読み取る活動を行った。	【前半】 秋山文菜 【後半】 三戸貴史	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
6	令和3年7月10日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-405	10	レストラン	①テイクアウト可能か確認して購入できることを目標とした。確認や注文の表現を練習した。また、料理ができるまで他の場所に行き、戻ってくることを伝える表現も練習した。最後は学習者同士でロールプレイを行った。 ②【教室A(わくわくクラス)と合同】自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、数年後を見据えた長期、中期の目標を設定した。	【前半】 オウシショウ 【後半】 青木身祐	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名 通訳(英語)1名
7	令和3年7月17日(土) 9:30~12:00	2.5	雑司が谷地域文化創造館	7	公共施設の利用 (図書館・体育館)	図書館や体育館など自宅近くの公共施設が利用できることを目標とした。利用者IDを作成するための窓口でのやりとりや図書館で本を借りる際の表現を練習した。 【読み書き】体育館のホームページや区報から開講されているスポーツ教室の情報を読み取り、参加したい教室を探す活動を行った。	【前半】 青木身祐 【後半】 周ジョセイ	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
8	令和3年7月24日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-405	7	宅配便	宅配便の集荷を依頼できることを目標とした。集荷依頼の電話の際に、聞かれる表現を聞いてわかる練習をした。 【読み書き】宅配便を送る際の送り状を適切に書くことを目標とした。送るものに合わせて品名を簡単に書く活動を行った。	リュウウテイ	指導補助1名
9	令和3年7月31日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西2-405	7	役所	区役所で住民票を取得できることを目標とした。住民票取得理由を話す練習をした。また、住民票申請時に必要なものや手順を確認した。 【読み書き】住民票申請書類を記入する練習を行った。希望する住民票の形式に合わせて、申請書類上の記入する箇所の違いを確認した。	【前半】 周ジョセイ 【後半】 三戸貴史	【前半】 指導補助1名 【後半】 指導補助1名
10	令和3年8月7日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1-314	5	ロールプレイ大会 (復習)	①第1回~第9回で学習した場面の行動が達成できるか確認した。日本語指導者や指導補助が店員役となり、参加者はブースを周り、それぞれの場面のロールプレイを行い、自己評価した。 ②【教室A(わくわくクラス)と合同】日本語学習を自律的、継続的に実施するために、自分で立てた短期目標の達成度を自己評価した。また、全10回でできるようになったこと、まだ難しいことを振り返り、学習ポートフォリオに記入した。	オウシショウ	指導補助4名 【後半】 通訳(英語)1名
11	令和3年8月28日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-202	8	商品について聞く	①【教室A(わくわくクラス)と合同】第10回で自己評価した短期目標の達成度を踏まえて、自律的、継続的な日本語学習を行うために、新たな短期目標を設定した。 ②スーパーなどで買い物をする際に、使用されている食材について質問できることを目標とした。どんなときに、食材を知りたいかを踏まえ、食材の名前や中身を確認する表現を練習した。	青木身祐	指導補助1名
12	令和3年9月4日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-202	9	プレゼントの購入を 相談する	プレゼントをあげる相手の特徴や予算を店員に伝え、購入の相談ができることを目標とした。店員によく聞かれる質問とその答え方や条件の伝え方を練習した。最後には、ペアで店員役と客役に分かれ、購入条件にあてはまるギフトを選ぶロールプレイを行った。 【読み書き】購入したプレゼントにメッセージカードを書く練習をした。状況によって、記入する言葉が変わることを確認し、最後にメッセージカードを書いた。	関根千紘	指導補助1名

13	令和3年9月11日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-202	8	薬局/ ドラッグストア	薬局で薬剤師に自分の症状やほしい薬の条件を伝え、購入できることを目標とした。症状や薬の飲み方の表現を練習し、ペアで店員役と客役に分かれ、購入条件にあてはまる薬を選ぶロールプレイを行った。 【読み書き】薬のパッケージから効能・効果や用法・用量を読み取りを行った。症状や条件に合った薬を選ぶ練習をした。	周ジョセイ	指導補助1名
14	令和3年9月18日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-202	4	返品・交換を依頼する	衣料品店などで、購入したばかりの商品の不具合を簡単に説明し、返品や取り換えに応じてもらえることを目標とした。返品・交換依頼の言語形式や店員の返答を聞いて理解する練習を行った。 【読み書き】レシートやホームページにある返品ポリシーを読み取る練習を行った。返品ポリシーにあるキーワードを読んで、返品交換ができるかどうか判断した。	オウシショウ	指導補助1名
15	令和3年9月25日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-303	9	タクシー (東京芸術劇場連携授業)	運転手に行先(自宅)を伝えられることを目標とした。まず、体を動かし、声を出したり、体を動かしながらことばを言ったりといったウォーミングアップの活動をした。次に目印や方向を示す表現を体を動かしながら、練習した。最後には、客となり、タクシー運転手役の日本語指導者とロールプレイを行った。	芸術劇場関係者 <無償>	指導補助3名
16	令和3年10月2日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	5	電器店に行く	①電器店で買いたい商品の値段や機能などの条件を伝え、購入できることを目標とした。購入条件を伝える練習や値段交渉の練習を行い、最後は店員と客役に分かれ、学習者同士でロールプレイを行った。 ②【教室A(わくわくクラス)と合同】第11回で立てた短期目標が達成されているか確認した。達成状況によって、短期目標を再設定した。	三戸貴史	指導補助1名
17	令和3年10月9日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	5	俳句の鑑賞と創作	俳句の持つリズムに乗せて、自分の伝えたいことを表現できることを目標とした。「五七五」や「季語」など俳句のルールを紹介し、テーマに合わせて、実際に俳句を創作した。	地引愛 <無償>	指導補助2名
18	令和3年10月16日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	7	俳句の創作/ 句会	第17回で作成した俳句を短冊に書き、短冊と状況を表す写真を見せながら、自分の創作した句を発表し合った。発表後は、句に関する質問に答えたり、句の感想を述べ合ったりした。	三戸貴史	指導補助1名
19	令和3年10月23日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	6	消防・救急	119番に電話し、消防車及び救急車を呼ぶことを目標とした。電話した際によく聞かれる質問を聞き分ける練習をした。電話を受ける人、する人に分かれて、設定した状況に合わせて、応答するロールプレイを行った。	地引愛 <無償>	指導補助2名
20	令和3年10月30日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	8	消防・救急 (東京消防庁連携授業)	【前半】119番に電話し、消防車及び救急車を呼ぶことを目標とした。東京消防庁目白出張所の消防士と学習者でグループになり、通報訓練を行った。 【後半:教室A(わくわくクラス)と合同】消防士に火事や救急に関わる質問をした。また、消防車や緊急出動時の準備の様子などを見学した。	青木身祐	指導補助1名
21	令和3年11月20日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	9	大家に苦情を伝える	①【教室A(わくわくクラス)と合同】第20回までで、できるようになったこと、まだ難しいことを振り返った。短期目標の達成状況を確認し、新たな短期目標を設定した。 ②隣の住人との間で騒音や異臭などの問題が生じたとき、管理人や大家にある程度詳しく状況を説明できることを目標とした。苦情を伝える表現を練習し、相手の状況(忙しそう)や態度(注意することを洪っている)に応じて、時間があるか聞いたり、念押しをしたりなど工夫しながら、ロールプレイを行った。	三戸貴史	指導補助1名
22	令和3年11月27日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-304	10	紙芝居 (東京芸術劇場連携授業)	自文化や日本の昔話を紹介し合い、グループで1つの昔話の紙芝居を作成した。話の内容を整理し、物語の文やセリフを考え、絵を描き、紙芝居を完成させた。その後、配役を決め、読む練習を行い、最後に、みんなの前で紙芝居を読んだ。	芸術劇場関係者 <無償>	指導補助2名

23	令和3年12月4日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	7	顔見知りの人との あいさつ	エレベーターや公園、街中などで、顔見知りの人に話しかけられた際に、自分から話題を提供できることを目標とした。誰でも共感しやすい近況の話題を考え、話しかける練習を行った。最後は、シナリオを作成し、会話を演じた。 【読み書き】知り合いからもらったメールを読んで、返信できることを目標にした。メールの内容から、返信の必要、不要を判断する練習を行った。返信が必要なメールに対して、返信内容を考え、メール文面を作成した。	青木身祐	指導補助1名
24	令和3年12月11日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	7	年末年始の過ごし方	①年末年始に偶然知り合いと会った際に、簡単に近況を報告できることを目標とした。年末年始に限ったあいさつ表現や相手の話を聞いて、驚き、喜び、悲しみなどの共感を示す表現の練習をした。最後には、ペアでシナリオを創作し、演じた。 ②自分の文化での年末年始の過ごし方を聞かれた際に、答えられるように、自文化での年末年始の過ごし方を発表できることを目標とした。年末年始にすることを思い出し、整理した。	地引愛 <無償>	指導補助1名
25	令和3年12月18日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	5	年末年始の過ごし方 (文化発表会)	第24回で整理した自文化での年末年始の過ごし方の情報を精査し、写真とキャプションがある1枚のポスターを作成した。発表する際の言語形式を練習した上で、ポスターを見せながら、自文化の年末年始について発表した。	三戸貴史	(無償)1名
26	令和3年12月25日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1-302	6	知り合いと雑談をする	①まだあまり親しくない人と人間関係の構築や維持ができることを目標とした。これまでに練習した表現や話題を振り返った。最後には、隣になった人と3分間無理なく話し続ける練習をした。 ②自分で立てた短期目標の達成度を自己評価した。また、第26回までにできるようになったこと、まだ難しいことを振り返り、中期・長期目標を設定した。	青木身祐	指導補助1名
27	令和4年1月8日(土) 13:00~15:00	2	学習院大学 中央棟12階	6	私たちが見た日本	※取組4と合同 気になるニュースについて、その内容や気になる理由について話した上で、自分の意見を述べた。また、参加者それぞれの意見や感想を共有した。	杜長俊 <無償>	—
28	令和4年1月15日(土) 13:00~15:00	2	雑司が谷地域文化創造館	6	日本生活の喜怒哀楽	※取組4と合同 日本の生活において「喜怒哀楽」を感じるものを写真と共に共有した。また、参加者でグループになり、「日本の喜怒哀楽」というテーマで短い動画を制作した。	杜長俊 <無償>	指導補助1名
29	令和4年1月29日(土) 13:00~15:00	2	学習院大学 中央棟12階	7	私ってどんな人?	※取組4と合同 自分の長所や短所、好きなことなど現在の自分について項目ごとにまとめ、自己紹介を行った。また、これまでの人生を折れ線グラフに見立て、楽しかったことや悲しかったことを振り返り、ペアで共有した。	澤口瑠璃	指導補助1名
30	令和4年2月5日(土) 13:00~15:00	2	雑司が谷地域文化創造館	7	私の過去	※取組4と合同 子どものころや学生のときの自分の写真を見ながら状況を説明した。また、その写真を選んだ理由や写真のころの自分について、ペアやグループで共有した。	杜長俊 <無償>	指導補助1名 保育1名
31	令和4年2月12日(土) 13:00~15:00	2	学習院大学 中央棟12階	4	将来やってみたいこと	※取組4と合同 今の生活の幸せ度について、ペアやグループで話した。また、生活をよりよくするために、これからやってみたいことを話し合った。	杜長俊 <無償>	指導補助1名
32	令和4年2月19日(土) 13:00~15:00	2	学習院大学 中央棟12階	6	日本にいるわたし	※取組4と合同 第29回~31回を振り返り、ライフストーリーをポスターにまとめた。ペアやグループで共有し、気になることについて相手を知るために質疑応答をした。	杜長俊 <無償>	—
33	令和4年2月26日(土) 13:30~16:30	3	東京芸術劇場	6	東京芸術劇場 やさしい日本語ツアー・ ワークショップ	【教室A(わくわくクラス)と合同】 ①ミニツアー: やさしい日本語による説明を聞きながら、劇場を見学した。 ②「日本語とつながるワークショップ: このコトバは、どんなカタチですか?」: ことばを使わずに順番に並んだり、長い竹を指で支え合って移動したりといったアイスブレイク活動をした後、様々な「コトバ」(恐竜、日本の春等)の形をチームで表現するという活動を行った。	松岡大 齊藤史緒	—
計		80		237				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第20回 令和3年10月30日】

コミュニティの中での学び、社会の一員であることを意識できる活動の一環として、東京消防庁豊島消防署目白出張所さんのご協力により、119番通報訓練と火事や救急発生時の行動に関する質疑応答を行った。昨年度は、オンラインでの実施となったが、今年度は、対面での実施が可能となった。119番通報訓練では、消防士さんとロールプレイを行い、消防車や救急車に自宅まで来てもらえるように、目印になる建物やビル名を伝えるなどの練習をした。また、質疑応答では、コロナ禍で倒れた人を助ける際にどのような行動をとるべきかなど、市民としてコロナ禍における不安や疑問が学習者から投げかけられ、消防士さんに解決していただいた。

(写真左:グループになって、消防士さんとロールプレイをしているところ)

(写真中央、右: 質疑応答の様子。コロナ禍で人を助ける方法や火事の際の避難ルートについて教えてもらっているところ)



○取組事例②

【第18回 令和3年10月16日・第25回 令和3年12月18日】

第18回、第25回では、一般日本人とやりとりし、相互理解を深めることができるように、順序立てて、まとまりのある話ができるような活動を行った。このような活動を計画した背景には、令和4年1月8日から開始された第4セッションで、社会に発信する能力の育成として、一般日本人とやりとりをしながら課題を達成するプロジェクト型の活動が計画されていたためである。その準備・練習として、やりとりを踏まえた相互理解やまとまりのある話ができるようになることを目標とした。

第18回では、俳句の鑑賞と創作をした上で、発表会(句会)を実施した。創作した句の背景を俳句や写真を見せながら、説明する活動を行った。

第25回では、自文化の年末年始の過ごし方について、ポスターを作成し、写真を見せながら、発表した。聞き手は、発表内容に関して質問したり、感想を述べたりした。

(写真左: 第18回句会の様子。自作の句と関わりのある写真を見せながら、句の背景を話しているところ)

(写真中央・右: 第25回文化発表会の様子。中央の写真は、ポスターを見せながら発表しているところ。右の写真は参加者が作成したポスター)



(2) 目標の達成状況・成果

1. 日本語能力の育成

・各セッション終了後に行っているアンケートで教室に通う前と後での日本能力の向上について尋ねたところ、各セッションに継続的に通っていた学習者(12名)のうち2名は「以前より少し上手になった」、6名は「以前より上手になった」、4名は「以前より日本語がかなり上手になった」と全員が日本語能力の向上を感じていることがわかった。

・コースを通して継続的に通っていた学習者(4名)の教室参加開始時と終了時の日本語能力を「わくわくとしま日本語教室日本語能力判定レベル表」を用いて教師の観察によって判定した。このレベル表は「とよた日本語能力判定」の尺度を参考に開発したものである。

「聞く」「話す」が単語や短文で話す程度「レベル1+:基礎段階」と判定された学習者(2名)のうち1名は、自分の経験や慣れたことなら、説明できるなど「レベル2:要支援段階」に達した。もう1名は、過去の出来事を順序立てて説明できる「レベル3:自立段階」に達したと考えられる。また、開始時の「聞く」「話す」能力が短い文をつなげて話すことができる「レベル2:要支援段階」程度と思われた学習者は、終了時には、過去の出来事の状況説明とその時の感想を話すことができるなど「レベル3:自立段階」に達したと考えられる。さらに、開始時に助けがあれば、過去の出来事を順序立てて説明できるというような「レベル3:自立段階」だった学習者は、終了時には、助けがなくても、過去の出来事の状況説明やその感想を話すことができるようになった。

以上のようにコースに継続的な参加があった学習者に関しては、段階の違いはあれど、日本語能力の向上が観察できた。

2. 日常生活での日本語使用

・教室B(ぐんぐんクラス)の学習者は、日本語を仕事や家庭で日常的に使用している状況ではあるが、上記アンケートで教室に通う前と後での日本使用頻度の変化について尋ねたところ、各セッションに継続的に通っていた学習者(12名)のうち3名は「以前より少し使用するようになった」、3名は「以前より使用するようになった」、5名は「以前よりかなり使用するようになった」と多くの人々が日本語使用の頻度が高まったことを感じていることがわかった。

3. コミュニティの参加・活用・形成

・昨年度はオンラインでの実施であったが、今年度はコースを通して対面で実施することができた。実物を使用したロールプレイなど対面授業ならではの練習を何度も行い、学習者同士の人間関係が深まった。例えば、教室外で学習者同士で出かけたり、誕生日プレゼントを贈るなどの交流がみられた。これは、教室がひとつのコミュニティとして形成されていったからだと考えられる。

・社会の一員であることを意識できる活動の一環として、東京芸術劇場との連携によるワークショップを実施した。対面でのやりとりを活性化させるだけでなく、紙芝居作成など、日本語を使って創造し、表現する活動を行った。また、東京芸術劇場のツアーなどにも参加し、教室外のコミュニティに参入するきっかけを作った。

・教室B(ぐんぐんクラス)は、クラス終了後には、新しいコミュニティに参加し、巣立つことをゴールとしている。そのため、コースの開始時から、コース終了後に自分の好きなことができるコミュニティなどに所属し、社会の一員として生活することをゴールとしていることを提示していた。新しいコミュニティ探しのきっかけとして、公共施設の利用などの授業を行った。学習者の中には、コースの中盤から、テニス教室に通い始めたり、希望していた職種のアルバイトをし始めたりするなど生活範囲の拡大を行い、新しいコミュニティへの参加を実現した人もいた。

4. 自律的・協働的に学び続けるための能力

・学習ポートフォリオを用い、学習者自身で設定した1週間の日本語学習に関する行動目標の達成度を自己評価する活動を毎週の授業開始後15分間に行っていた。教師と学習者各1、2名ずつで学習ポートフォリオを記入しながら、内容を報告し合った。継続的に通っていた学習者の中には、書くことの機会を増やすために、日本語で日記を書くなどの行動目標を立て、実行していた。また、学習ポートフォリオの記入時間は他の学習者と学習方法について話す機会にもなっていた。例えば、口頭能力を伸ばしたいと考えていた学習者は、他の学習者に勉強方法を相談し、日本のテレビを見るなどの行動目標を立て、実行していた。

・上記のように自ら目標を立てることで、各学習者が互いに相談し合いながら、学習を自律的に行うことを促していたと考えられる。

5. 日本語及び日本社会についての理解

・アンケートとインタビューから、日本語についての理解としては、俳句の授業を通して、拍感覚がわかったという意見があった。

・また、日本社会に関しては、顔見知りの人との会話を授業で取り上げたため、親疎関係や状況に適した話題がどういふものかわかるようになったという感想があった。

・さらに、歯医者や美容院の予約の必要性や施設利用方法、返品や交換のポリシーなどの自国との違いに気づいたという意見があった。

・取組4と合同で実施した授業(第27~32回)では、日本語母語話者とともに、生活や考え方、気持ちなど自分のことを伝えることを通して、共通点を見つけたり、積極的に質問したりする行動が観察された。終了時に実施したアンケートでは、「お互いについて少しずつ知りながら、日本語を学ぶことができうれしかった」「日本人と交流できる自信がついた」「日本語を学ぶ意欲が引き出されている」などの意見があり、日本人との交流を深めながら、日本語を学べたことがわかった。さらに、取組3のシンポジウムでは、「日本にいる私」というテーマでポスターを作成し、地域の住民に自身の生活や生活に対する考えを伝えた。シンポジウムに参加した感想として、地域住民からの質問に答えることで「自分のことが理解されていると実感できた」という意見があった。このように、日本社会に対する理解を深めたと同時に、社会の一員としての日本語を身につけたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

1. 日本語能力の育成と自律的・協働的に学び続けるための能力の養成について

・教室B(ぐんぐんクラス)は、毎回とりあげるテーマ(場面)に対応する「読み書き」を授業で行っていた。授業でとりあげた場面における行為の達成はできるようになったが、「読む」「書く」の能力を計画的に伸ばさせることはできなかった。また、標準的なカリキュラム案を基に学習者の生活場面における「読む」「書く」能力を取り上げたが、情報を得たり、発信したりするツールが変容する中で、学習者が遭遇する「読む」「書く」場面を選び出すことが難しくなった。一方、第3~4セッションでは、ポスターを作成した。自己表現や他者理解のために「読む」「書く」を行うことに、学習者から肯定的な意見が多くあった。生活場面に必要な読み書きだけではなく、自己表現や他者理解という観点も含めた「読む」「書く」能力が伸長するコース設計が望まれる。

・第3セッションでは、人間関係の構築・維持をテーマとして、人間関係の親疎を「顔見知り」「知り合い」「友人」と3段階にわけ、雑談をする練習等を行った。授業を展開する中で、わからないことを別の言葉で説明したり、言いたいことを相手から引き出すなどコミュニケーション上の方略が必要ということがわかったが、授業に組み込むことは難しかった。一般日本人とより活発にやりとりができるようになることねらい、今後、コミュニケーション上の方略も授業に組み込む必要がある。

2. コミュニティの参加・活用・形成について

・教室B(ぐんぐんクラス)は、クラス終了後は、当教室を巣立つことがゴールとされている。そのため、新しいコミュニティ探しができるような授業を実施すべきであるが、コロナの状況もあり、公共施設(体育館、図書館)の利用紹介にとどまった。中には、新しいコミュニティを探し、生活範囲を拡大できた学習者もいたが、一部の学習者だけではなく、参加者全員が新しいコミュニティの発見・参加ができるように、地域のサークル、NPOなどに協力を得て、教室終了後の学習者の生活範囲の拡大を促したいと考えている。

3. 継続的な学習

・本コースは、4つのセッションにわかれている。各セッションでは、7名前後の継続者がいたが、全セッションを継続的に参加していた学習者は4名で、セッションごとに学習者の入れ替わりが多かった。

・セッションとしての継続はあっても、コースとしての継続がない原因・理由を分析し、今後のコース設計に生かす必要がある。

＜取組3＞【実施期間:令和4年3月5日～令和4年3月5日】												
取組の名称		シンポジウム「豊島区における日本語教育体制のこれから—日本語が学びやすい環境を作るために—」の開催										
取組の目標		2019年の発足後3年にわたる「日本語ネットとしま」(豊島区日本語教育ネットワーク会議)の活動の報告、活動を進める上で参考になる講演・事例紹介などを通じ、豊島区民の区内日本語教育に対する理解を深める。特に、2019年度及び2020年度の調査結果に関する議論及び、3年間の情報交換・意見交換を経て見出した区内日本語教育の課題と方策について、来場者間の意見交換の場を設け、日本語学習支援及び交流活動の促進のための機運を醸成する。										
取組の内容		<p>1. 2019～2021年度における「日本語ネットとしま」の活動を報告した。</p> <p>2. 2種の調査(区内日本語教育の実態、在住外国人の日本語能力、日本語の使用状況・学習状況に関する実態等に関する調査)によって明らかとなった課題とその対応策について報告し、意見交換を行った。</p> <p>3. 主に「日本語ネットとしま」メンバーによる報告、発表、シンポジウム参加者全体によるディスカッションと全体共有を通して、豊島区における今後の日本語教育体制、日本語が学びやすい学習環境作りについて意見交換を行った。具体的には、豊島区の外国人施策の現状、豊島区における児童生徒の日本語教育と実践、外国人支援実践から見てきた日本語学習ニーズについての報告、日本語教室の学習者によるポスター発表、区内で活動する日本語教室によるパネルディスカッションを行った。</p> <p>尚、「日本語ネットとしま」が発足してから3回目となるシンポジウムであり、また、2022年度以降の新たな展開を示す必要があることから、シンポジウムの具体的内容は、「日本語ネットとしま」で検討した。</p>										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当しない										
取組による体制整備		取組1において実施した調査の結果をエビデンスとして、課題の明確化と方策を検討した(取組1)。その結果を広く公開し意見交換することや、具体的な事例紹介や、課題とその解決のための提案により、「日本語ネットとしま」の関係者のみならず、一般の住民にも当事者としての行動可能性を感じてもらえる機会となった。										
取組による日本語能力の向上		本取組において、日本語習得に関する直接的な効果は目的としない。										
参加対象者		「日本語ネットとしま」構成員、豊島区及び近隣地域在住・在勤・在学の方				参加者数 (内 外国人数)		71人(7人) (会場45人、オンライン26人)				
広報及び募集方法		チラシ作成・配布・配置(豊島区窓口等)。豊島区広報紙、豊島区ホームページ、大学ホームページ、豊島区及び近隣地域の日本語教育や多文化共生、異文化理解関係へのチラシ送付、他各種SNSによる周知。										
開催時間数		総時間 3.5時間(空白地域 0時間)				内訳 3.5時間 × 1回						
主な連携・協働先		豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習グループ、豊島区政策経営部企画課、豊島区教育センター、豊島区教育委員会、豊島区民社会福祉協議会、区内日本語教室、各種自主サークル										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
※該当する場合のみ		2	1								64	67
イギリス(1人)、ミャンマー(1人)、台湾(2人)												
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	令和4年3月5日(土) 13:30～17:00	3.5	学習院大学 中央教育研究棟403/ オンライン	71	豊島区における日本語教育体制のこれから—日本語が学びやすい環境を作るために—	<p>1. 趣旨説明</p> <p>2. 2021年度の活動報告</p> <p>3. 豊島区外国人施策の現状</p> <p>4. 報告: 1.豊島区における児童生徒の日本語教育と池袋小学校の実践 報告2.豊島区における外国人支援—支援から見てきた日本語学習ニーズ— (休憩時間)ポスターセッション:「日本にいる私」について(日本語学習者による発表)</p> <p>5. パネルディスカッション:「より良い日本語学習環境作りのために」 (1)区内で活動する日本語教室の報告 (2)質疑応答とコメント (3)全体でのディスカッション</p>	コメンテーター:米勢治子	発表者(無償)3名 発表者10名 補助者6名				
計		3.5		71								

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①(シンポジウムの開催は1回であるため、事例も1例のみである)

【令和4年3月5日】

趣旨説明及び2021年度の活動報告を行った後、豊島区外国人施策の現状について豊島区より説明があり、区内の実践について2つの報告を行った。一つは、「豊島区における児童生徒の日本語教育と池袋小学校の実践」について、池袋小学校長の石川先生からの報告、もう一つは、「豊島区における外国人支援—支援から見えてきた日本語学習ニーズ—」について、豊島区民社会福祉協議会の田中課長と、支援事業を一緒に行った公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の村松さんによる報告があった。

休憩時間には、学習院大学わくわくとしま日本語教室の学習者によるポスターセッション「『日本にいる私』について」がシンポジウムの隣の会場で行われ、多くの会場参加者が熱心に説明を聞いたり、質問をしていた。

後半のパネルディスカッション「より良い日本語学習環境作りのために」では、豊島区で活動する4つの日本語教室から報告があり、コメンテーターの米勢治子先生を交えての質疑応答、米勢先生から豊島区の状況を踏まえたコメントがあった。その後、会場、オンラインそれぞれでグループディスカッションを行い、多くの意見が寄せられた。最後に全体で意見を共有した。

(写真:左 ポスターセッションの様子、写真:中央 パネルディスカッションの様子、写真:右 全体共有(意見を書いた付箋紙を貼った模造紙)の様子)



(2) 目標の達成状況・成果

・シンポジウムを通して、参加者が新しい情報や知識を得て、地域日本語教育についての理解を深めることができた。

2019年の発足後3年にわたる「日本語ネットとしま」(豊島区日本語教育ネットワーク会議)の活動の報告、主に「日本語ネットとしま」メンバーによる活動報告や事例紹介、課題や課題に対する提案等を通じて、シンポジウム参加者の多くが豊島区内日本語教育に対する新しい情報や知識を得て、理解を深めることができた。参加者アンケートによると、新しい情報や知識が「おおいに得られた」及び「得られた」とする回答は合わせて80.5%、「少し得られた」を合わせると100%となり、地域の日本語教育についての理解が「おおいに深まった」及び「深まった」とする回答は合わせて73.2%、「少し深まった」を合わせると100%となった。

・シンポジウムにおける報告、パネルディスカッションをふまえ、参加者間の意見交換の場を設け、これからの日本語教育体制に関する意見を共有することを通して、日本語学習支援及び交流活動の促進のための機運を醸成した。

参加者間の意見交換(グループディスカッション)後に、(1)「より良い日本語学習環境」とはどういうものか、(2)そのために、地域(豊島区など市区町村)ではどうすればいいか、(3)参加者自身は何ができそうか、について、各参加者が自分の意見を付箋紙に書き、模造紙に貼って共有した。(オンライン参加者は、オンラインフォームに記入し、共有した。)その結果、(1)「より良い日本語学習環境」として、多くの参加者の記述から「学習環境の拡充」(時間帯、地域、レベル、方法、内容等)が挙げられた。(2)そのための地域への期待として、「情報発信・情報提供」「連携体制のさらなる強化」「交流の場作り」「やさしい日本語」等が多く挙げられた。(3)自分ができそうなこととしては、「交流」「支援」「支援のための連携」「日本語教育機関の教材等リソースの共有・提供」など様々な提案がなされた。この結果から、参加者が地域の日本語教育体制、学習環境作りについて「自分事」として捉え、その促進のための意見交換に積極的に参加することができたと考えられる。

・地域日本語教育と関わりがない方(関わりが少ない方)にも関心をもってもらえる機会となった。

参加申込の際に、地域日本語教育との関わりを聞いたところ、申し込み者86名のうち「これまで関わりがないが関心がある」と答えた人が10名おり、1割以上となった。「地域日本語教育関係者」は44名で5割超を占めたが、自治体関係者(9名)、地域以外の日本語教師(9名)等、「地域日本語教育関係者」以外が半数近くを占めた。実際の参加者についても、「地域日本語教育関係者」は、71名のうち35名となっており、申し込み同様に「地域日本語教育関係者」以外が半数近く参加した。このことにより、地域日本語教育関係者以外の豊島区及び近隣地域からの参加者にも広く日本語教育体制のこれからについて情報を提供し、議論する機会をもつことができたと考えられる。

・豊島区の日本語教育機関や組織の連携及び日本語教育体制整備の進捗状況に対し、一定の理解を得ることができた。

参加者アンケートによると、連携が「おおいに進んだ」及び「進んだ」という回答は合わせて47.5%、「少し進んだ」を合わせると90%となった。また、体制整備が「おおいに進んだ」及び「進んだ」という回答は合わせて37.5%、「少し進んだ」を合わせると90%という結果だった。連携及び体制整備が十分とはいえないものの、ある程度進んでいると理解されていることがわかった。

(3) 今後の改善点について

・豊島区内の地域日本語教育に関わる連携のさらなる強化が必要である。参加者アンケートでは、連携が「少し進んだ」という回答が42.5%と最も多く、まだ十分とはいえないことは明らかである。その要因の一つとして、コロナの影響が「日本語ネットとしま」発足1年目の2019年度終わりから始まり、今年度も続いたことから、連携のさらなる強化や、広がり、深まりへの意欲があっても状況として難しかったことは否めない。しかし、この状況は今後も続く可能性が高い。連携促進のためには現状を再検討し、「日本語ネットとしま」のメンバーそれぞれが主体となり、協力体制を築いていくことが望まれる。

・地域住民のための日本語教育体制整備の継続が必要である。参加者アンケートでは、体制整備が「少し進んだ」という回答が52.5%と半数を超えており、上述の連携以上に、今後進めていかなければならない。そのためには、ネットワークの主体である豊島区、社会福祉協議会、各種NPO団体、日本語教育機関(日本語教室、大学、日本語学校他)がより役割を担い、連携して体制整備を推進できるように議論を進めていかなければならない。

＜取組4＞【実施期間:令和4年1月1日～令和4年2月28日】												
取組の名称		人材の育成:共に育てる日本語コミュニケーション能力										
取組の目標		1. 日本人等日本語母語話者が、日本語能力が十分でない人と口頭でのやりとりをする際に、自身の日本語を相手に合わせて調整し、相手の発話を促したりすることができるようになる。 2. 活動と成果公表を通じて、相互理解、自己理解を促す。										
取組の内容		1. プロジェクト型活動を通じた相互理解・自己理解:テーマ(例:日本にいる私、将来やってみたいこと、私たちが見た日本等)を設定し、日本語学習者が一枚の写真を用いながら、そのテーマについて語る動画やポスターを作成した。ポスターの作成過程において、日本人等日本語母語話者が支援を行った。作成したポスターは取組3のシンポジウムの中で発表し、多くの人に在住外国人を個人として理解してもらうことができた。活動を通じ、日本語母語話者と学習者の双方が相互理解と自己理解を深めた。 2. 日本語コミュニケーション能力の向上:「やさしい日本語」の法則や留意点を学んだ上で、相手に合わせて日本語を調整する能力を身に付けた。 3. コミュニケーション能力及び異文化間コミュニケーションに関する理解の促進:コミュニケーション能力の構成要素、異文化間コミュニケーションにおける留意点などを授業後のふりかえりを通じて学び、異文化や異文化間コミュニケーションに関する知識を持つと同時に、異文化に対する意識を高めた。										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当しない										
取組による体制整備		日本語学習者の活動を支援することにより、日本語母語話者の日本語調整能力や異文化間コミュニケーション能力を高めることが可能となり、職場、日本語教室、各種サークル等、様々な場面で、日本語学習者とのやりとり、相互理解が円滑になることが期待される。また、その成果物を公開し、成果を介した交流が行われることを通じて、在住外国人・日本語学習・日本語教育に対する日本人の理解が深まる。										
取組による日本語能力の向上		基礎段階の学習を終えた日本語学習者が、日本語教師以外の日本語話者と、課題を達成するためのやりとりを重ね、成果物を作る。これにより、新たな言語知識を獲得し、運用能力を高めていく。産出する能力の中で、特に、「書く」能力への焦点化が可能である。										
参加対象者		豊島区在住あるいは在勤の、日本語母語話者と日本語学習者<取組2>					参加者数 (内 外国人数)		12人(取組2学習者7人) 本取組には日本人と外国人の両方が参加しており、外国人7名の内訳は取組2教室Bに記載した)			
広報及び募集方法		チラシ作成・配布・配置(豊島区窓口等)。豊島区ホームページ、大学ホームページ、各種SNSによる周知。										
開催時間数		総時間 15 時間			内訳 2.5 時間 × 6 回 (授業2時間+授業後のふりかえり0.5時間)							
主な連携・協働先		豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習グループ、豊島区内日本語教室、等										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
※該当する場合のみ											5	5
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	令和4年1月8日(土) 13:00～15:30	2.5	学習院大学 中央棟12階 国際会議場	4	私たちが見た日本	【授業】 学習者とともに、気になる日本のニュースを取り上げ、その内容や気になる理由について話し、自分の意見を述べた。自身が取り上げたニュースと学習者の取り上げたニュースについて、それぞれの意見をまとめ、全体で共有した。 【ふりかえり】 学習者の発話が分かりにくい場合の対応として、学習者の言いたかったことを、簡単な言葉で言い換える方法について意見を交換した。また、自身の発話を調整する方法として、発話を適宜区切ったり、「○○ってわかりますか」と問いかけたり、様々な方法について話し合った。	杜長俊 (無償)	—				
2	令和4年1月15日(土) 13:00～15:30	2.5	雑司が谷 地域文化創造館	4	日本生活の喜怒哀楽	【授業】 日本の生活において「喜怒哀楽」を感じるものを写真と共に、「いつ」「どこ」「どうしてそのように感じるか」、学習者と共有した。また、学習者と協働し、「日本生活の喜怒哀楽」というテーマで短い動画を制作した。 【ふりかえり】 学習者同士のやりとりを促す方法について話し合った。特にレベルの差がある場合、学習者同士の理解をどのようにすり合わせるかについて、意見交換を行った	杜長俊 (無償)	指導補助1名				

3	令和4年1月29日(土) 13:00~15:30	2.5	学習院大学 中央棟12階 国際会議場	3	私ってどんな人？	<p>【授業】 自分の性格や好きなことなどについて、自身のプロフィールを作り、学習者がプロフィールを作るサポートをした。作ったプロフィールを使ってお互いに紹介があった。また、これまでの人生について、折れ線グラフを書き、楽しかった出来事や悲しかった出来事について、その出来事の詳細をお互いに説明があった。</p> <p>【ふりかえり】 学習者が言いたいことをうまく言えない場合や、発話の中に文法的な間違いがある場合に、学習者の発話に対する対応について意見を交換した。また、相互理解を深めるために、どんな活動が有効なのかについて話し合った。</p>	<p>【授業】 澤口瑠璃 (取組2として) 地引愛 (無償)</p> <p>【ふりかえり】 杜長俊 (無償)</p>	指導補助1名
4	令和4年2月5日(土) 13:00~15:30	2.5	雑司が谷地 域文化創造 館	3	私の過去	<p>【授業】 子どものころや学生のとときの自分の写真を見ながら、「いつ」「どこ」「なにをしたか」など、状況をお互いに説明があった。また、その写真を選んだ理由や写真の思い出について、説明文をつかった。写真の文章を読んで、感想を述べあった。</p> <p>【ふりかえり】 お互いの過去や背景を話すことで、「海外で働く」「英語教師を目指す」等、学習者との共通経験を見つけ、相互理解を深めることができたという感想について、意見を交換した。また、学習者の読み書きの能力についての観察を紹介があった。</p>	杜長俊 (無償)	指導補助1名 保育(取組2として)1名
5	令和4年2月12日(土) 13:00~15:30	2.5	学習院大学 中央棟12階 国際会議場	3	将来やってみたいこと	<p>【授業】 今の生活の幸せ度を数値で書いて、その理由についてお互いに説明があった。また、今の生活をよりよくするために、これからやってみたいことについて、グループのメンバーに紹介し、感想やアドバイスを述べ合う活動をした。</p> <p>【ふりかえり】 学習者の生活状況や、生活に対する考え方について、お互いの観察結果を共有した。また、学習者が日本語を使って自分のことを詳しく話したり、相手に対してアドバイスを言ったりできるようになったという観察があり、学習者の日本語能力の成長について意見交換を行った。</p>	杜長俊 (無償)	指導補助1名
6	令和4年2月19日(土) 13:00~15:30	2.5	学習院大学 中央棟12階 国際会議場	3	日本にいる私	<p>【授業】 これまでの内容をふりかえり、授業の話し合いで知ったお互いのことを思い出す活動をした。「日本にいる私」というテーマで学習者が自身のライフストーリーをポスターにまとめる補助として、日本語の表現を提示したり、ポスターの構成について意見を述べた。ポスター発表の練習として、学習者の発表を聞く相手として、質問をした。</p> <p>【ふりかえり】 6回の授業を通して、できるようになったと感じることについて話し合った。「学習者同士のやりとりを促すこと」「1人1人のレベルに合わせて日本語を調整すること」「道具やリソースを使って相互理解を深めること」においてどのようにできるようになったかについて意見交換を行った。</p>	杜長俊 (無償)	—
計		15		20				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第4回 令和4年2月5日】

第4回は、「私の過去」というテーマで、写真を使って自身の過去や背景を紹介があった。事前には、「子どものときの写真」や「若い時の写真」を探しておくことを参加者に依頼した。授業の前半では、用意した写真について、「いつ」「どこ」「なにをしたか」など、写真についての詳しい情報を整理し、お互いに紹介し合った。授業の後半では、写真の説明文を書くという活動を行った。「写真のタイトル」と「当時の思い出」が書かれた付箋を、写真とともに壁に貼り、展示会のような形で、お互いの書いた内容を共有した。

<写真>

左: グループに分かれて、自身の写真について説明しあっているところ

右: 写真の思い出について各自が書いた内容を共有しているところ



○取組事例②

【第6回 令和4年2月19日】

本取組の最終回。この回の授業では、これまで話した内容(お互いの「過去」「今」「未来」)をふりかえり、学習者が「日本にいる私」というテーマでポスターを作成した。ポスター作成に取りかかる際に、ポスターの作成は単に書く練習ではなく、「相互理解を深める」という目標を実現するものであることを再度説明した。特に、地域住民に向けて「日本の生活」及び「日本の生活に対する考え方」を自ら発信するという部分を強調した。日本人参加者は、伝えたいことをどうやって表現すればよいかという学習者の質問に答えながら、地域住民の目線からどんなことを知りたいのか学習者に伝え、ポスター作成のサポートをした。

<写真>

左:学習者がポスターを作成している様子

中:日本人参加者がポスター作成のサポートをしている様子

右:3月5日のシンポジウムで学習者がポスター発表をしている様子



(2) 目標の達成状況・成果

1. プロジェクト型の活動を通じた相互理解・自己理解:

授業内では、「日本にいる私」「私の過去」「私ってどんな人?」といったテーマを設定し、写真やグラフなど、相互理解を行うための道具や資源を、参加者が持ち寄った。日本人参加者は、学習者の用意した道具や資源を十分に活用し、学習者のこと(生活、考え、気持ち)を引き出すことができている様子が観察された。さらに、授業後のふりかえりでは、学習者の様々な側面が見えて、もっと知りたいと思うというコメントや、学習者から学べることがたくさんあったというコメントがあった。このことから、相互理解に対する意欲が大きく引き出されていると言える。また、「〇〇さんも海外で働く女性ですね、私と一緒に!(第4回)」「コロナでできないことがたくさんあるけど、新しいことに挑戦しているところが同じだね!(第6回)」というように、共通点を学習者から伝えられる現象が多く観察された。このような現象は、本取組がアイデンティティや生活に対する態度等に、学習者とのやりとりを通して気づき、自分を見直す機会になっていることを表している。

2. 日本語コミュニケーション能力の向上:

終了時のアンケートの「コースを通してどんなことができるようになったか」という項目に対して、「日本語でわかりやすく説明するにはどのように言えばいいかを考えたり、調べたりするようになりました。また、その言い方や説明で理解してもらえるか、実際に講座で使ってみて、この場合は、このように言えばいいんだと学ぶようになりました」という回答があった。学習者1人1人のレベルに合わせて自身の日本語を調整する力は、この回答を書いた人以外の参加者にも観察されている。また、授業では、グループでの話し合いの活動が行われているが、グループの中で、学習者の間にレベルの差がある場合、それぞれの理解を確認し、理解を共有するファシリテートの力がついたというアンケートの回答があった。

3. コミュニケーション能力及び異文化間コミュニケーションに関する理解の促進: 毎回の授業後、学習者とのやりとりについてふりかえる活動を行った。印象に残ったやりとりや、難しいと感じる状況を共有し、その状況においてどのように対応するか、講師とともに意見交換をした。「やさしい日本語」「意味交渉」「ファシリテーション」「資源・道具の活用」「非言語コミュニケーション」について話し合った。最初、講師からの情報提供が多かったが、回を重ねていくうちに、自身の課題を把握し、学習者とのやりとりで課題解決を試した過程や実践を話すようになった。

(3) 今後の改善点について

1. 自己理解について変化・変容の可視化:

本取組の目標である「相互理解・自己理解の促進」について、(2)目標の達成状況・成果の1で述べた通り、学習者が日本人参加者との共通点を見つけ、積極的に伝える現象が見られている。このことから、相手のことを、自分の立場に置き換えて理解し、相互理解をやりとりの中で成し遂げており、その過程の中で、「私ってこんな人なんだ」というように、自己理解においてはたくさんの気づきが生じることが予想される。しかし、そういった気づきは、現段階、個人の心の中にあるもので、お互いに見えるような水準に至っていない。外国人とともに学ぶ過程の中で生じる自己理解の変化・変容を可視化するために、どんな資源や手段が使用可能か、検討していく必要がある。

2. 書くことへの焦点化:

本取組を通して、日本語学習者が、自分の「過去」「いま」「未来」について、様々な資源や道具を活用し、まとまりのある話ができるようになったことが観察されている。具体的に、自分の考えや経験について、背景や理由を述べたり、情報を補足したりできるようになった。これらの口頭能力の向上は、授業後のふりかえりでも日本人参加者の関心度が高かった。一方、書くことについては、昔の写真に説明をつけたり、日本の暮らしを紹介するポスターを作ったりするなどの活動を行ったが、口頭の活動で話した内容を文字にしていくという単純作業になっているという印象が強かった。「何のために書くか」「何をどの順番で書くか」「話すこととどう違うか」など、学習者及び日本人参加者両方に対して、書くことへの意識を強化する必要がある。

3. 「人材」の活躍可能性:

本取組は、日本語母語話者が基礎段階の学習を終えた学習者とともに学ぶ教室として行った。この教室は最終的に、「コミュニケーションを学ぶ場」、「外国人とのやりとりを実践する場」、「自分を見直す場」、「交流をする場」、「居場所」、「コミュニティ」など、複合的な機能を果たすことができた。この教室についての日本語学習者からの評価も高かったことから、今後、本取組によって育った「人材」がこういった機能を果たす場を自ら作っていくことを促すような工夫についても検討したい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

外国籍住民が、社会(コミュニティ)の一員として日本語を学び、日本語でコミュニケーションできる環境を作ることは、外国人が人口の1割を超える存在となっている豊島区が、真の共生社会となるために、さらには、消滅可能性都市(日本創生会議、2014)を脱却するために、優先すべき課題の一つである。しかし、世界を襲ったCOVID-19の影響を受け、過半数の区内日本語教室が休室を余儀なくされているという現状は、当区の日本語教育体制の脆弱さを如実に表している。

2019年度に築いたネットワーク「日本語ネットとしま」において、この課題について問題提起し、域内において途切れることのない日本語学習支援体制、漏れのない支援体制、を築いていくための議論を進め、具体的な方策を検討する。社会状況によって、日本語教育、日本語学習支援が途絶えてしまうことのないよう、新たな方法を取り入れた日本語教育の実践を通じて、言語教育の方法を再考すると同時に、2019年度の日本語教室等を対象とした調査、2020年度の外国籍住民を対象とした結果を踏まえて、豊島区において必要かつ有効な日本語教室運営、地域日本語教育体制を提案する。

並行して、日本語ができるようになってから日本社会に参入するという発想ではなく、外国人が社会への発信者となることを目指したプロジェクト型活動を取り入れた研修を実施し、日本人・外国人双方のコミュニケーション能力の向上、相互理解の促進を図る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・ネットワーク会議「日本語ネットとしま」での情報・意見交換を3年間続けてきたことにより、相互理解が進み、団体・組織間のつながりが強化された。その結果、会議内容を生かしたシンポジウムの実施、「豊島区日本語学習環境マップ」の全面改訂が可能となった。

・2019年度及び2020年度に実施した調査の結果分析を進めたことにより、豊島区内の日本語学習環境の問題点、体制整備のための課題を明らかにした。これをもとに、会議及びシンポジウムにおいて、課題解決のための方策を議論した。シンポジウムのグループディスカッションでは意見交換が活発に行われ、その後、参加者全員が付箋紙に一人一人の提案や宣言を記した。「日本語教室や支援団体などを学習者ファーストの目線で結びつける」「お茶を飲みながら話をしたいです」といった、当事者性の高いものが多かったのは一つの成果である。

・日本語教室においては、学習者へのアンケート等により日本語能力の向上、日本語の使用頻度の増加が見られた。これは、一年を通して対面授業を実施したことに加え、事前事後の動画(自主作成)活用を促したことや、予習シートや学習ポートフォリオの使用法を大きく改善したことによる成果である。その一方で、感染症の影響やレベルの不一致、動機の低下などにより参加が途絶える学習者もいた。この課題を解決すべく、これまでの教育方法をあらためて見直し、新たな方法を取り入れていく必要があると考えている。

・人材育成のための研修において、相手のことを自分の立場や状況に置き換えて理解している様子が見られた。アンケートには「相手のレベルに合わせて日本語を調整する」「グループの話し合いをファシリテートする」といった力がついたとの回答があり、相互理解が促されると同時に、コミュニケーション能力が向上したことがわかる。

・豊島区において必要かつ有効な日本語教室運営、地域日本語教育体制を提案するという目標については、今年度は提案を取りまとめる段階には至らなかった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

1. 本事業は、豊島区の後援を受けて実施している。具体的には、各取組について豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習グループ及び経営政策部企画課多文化共生推進グループに情報提供、広報活動など、シンポジウム及び日本語教室の開催におけるサポートを得ている。情報提供を相互に行ったり、意見を交換したりすることが以前よりも盛んになり、連携が進んだと考えられる。また、日本語教育ネットワーク「日本語ネットとしま」の活動を通して、地域の日本語教育や外国人支援に関わる機関・団体、外国につながる区民と定期的に情報交換・意見交換を行い、多様な視点からの意見表出やコロナ禍における工夫の共有、シンポジウム開催のための協力、メンバー間の新たな連携なども生まれた。シンポジウムの企画において「日本語ネットとしま」メンバーの意見を積極的に取り入れるだけでなく、登壇者の8割を「日本語ネットとしま」メンバーとした。

2. 日本語教室では、感染症拡大により、外部団体との連携が困難となったが、東京消防庁豊島消防署目白出張所、東京芸術劇場の協力を得て、連携授業・ワークショップを実施した。感染対策を十分に講ずることにより、地域との連携・協力がある程度可能であることを示すことができた。また、豊島区立図書館や豊島区環境清掃部ごみ減量推進課、豊島区総務部防災危機管理課の刊行物等について、教材への転載許可を得ることもでき、豊島区との連携が強化されると同時に、地域における日本語教育に対する理解も促された。学習者の生活範囲拡大や孤立防止のためには、感染症がまん延している状況であっても安心して連携活動ができるような方策の確立が求められる。

3. シンポジウムにおいては、地域日本語教育や外国人支援の関係者だけでなく、在住外国人(日本語学習者)が自分自身について語るというポスター発表を行った。「日本語ネットとしま」メンバーからは、在住外国人が参加し自己表現を行う場をもっと設けたらどうかというアイデアも出されており、地域とのさらなる連携強化の可能性が生まれている。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・日本語教室等の開催にあたっては、豊島区HP及び大学HPに教室情報を掲載した。また、Facebookに定期的に教室情報を投稿し、在住外国人コミュニティのFacebook等での情報提供も行った。また、区内の幼稚園・保育園・小中学校へのチラシ配布、外国人利用者の多いレストランや病院でのチラシ設置も行った。2020年度に比べ、問い合わせが近隣地域外からも増加しており、広報・周知において一定の成果があったと言える。

・シンポジウムについては、大学HPでの告知、豊島区のHPや区報への掲載、区の関連施設へのチラシ配布を行った。「日本語ネットとしま」メンバーを通じた広報や、これまでのシンポジウム申し込み者への通知も行った。申し込みフォームのQRコードを区報やチラシに掲載し、申し込みやすくした。参加者の6割が豊島区、9割が東京都在住・在勤・在学であり、効果的な発信ができたと考える。

・2020年度実施調査の分析結果についてシンポジウムで報告し、大学HPで公開した。豊島区HPでも公開予定である。「豊島区日本語学習環境マップ」改訂版も、学習院大学HPで公開し、今後、必要な機関・人へ周知・配布していく予定である。また、2019年度及び2020年度調査の結果を関連付けて分析することにより、豊島区内の日本語教育に関する課題が明らかとなり、課題についての共通認識を持つことができた。

(5) 改善点, 今後の課題について

1. ネットワークのさらなる強化:3年間の「日本語ネットとしま」の会議開催やシンポジウム等での協力を通して、ネットワークが強化され、意見交換も活発に行われるようになった。しかし、「日本語ネットとしま」内の役割分担や、定期的な会議以外での連携、参加団体の広がり等、今後の連携体制維持のために検討すべき課題が残されている。
2. 日本語教育体制整備のための具体的施策の検討:2019年度、2020年度実施の調査結果や「日本語ネットとしま」での議論、シンポジウムにおける意見交換を通じて、地域における日本語教育体制の課題や課題解決のための提案を集めることができた。今後はそれらを具体的な施策・方策に結び付けていく必要がある。
3. 地域の課題に応える日本語教室運営:2020年度の外国籍住民を対象とした調査結果と、当大学の日本語教室での経験を踏まえ、豊島区における有効な日本語教室運営方法を考える計画である。
4. 日本語指導力の向上:コミュニケーションを重視しつつ文法に対する意識を高めることや、レベル差に対応することなど、教室内の多様な課題に対応できる力を身に付ける必要がある。
5. 地域の組織・団体との新たな連携:感染症拡大を契機に人との関わりが希薄になる中で、学習者が孤立してしまうことのないよう、学習者がいかに自己の生活を広げていくかを意識した日本語教室をデザインしたい。そのために、連携先の拡大をはかりたい。
6. 共に学ぶ教室についての検討:2020年度調査によると、外国籍住民が多文化共生を意図した活動として期待しているものの第1位は「外国人と日本人が交流する機会(イベント等)を作ること」である。今年度実施した、人材育成のための研修(日本語教室Bと合同実施)は、参加した学習者がプロジェクト型活動に意欲的に取り組み、教室継続を強く望むという結果となった。当大学の日本語教室の対象範囲を超えるため、今後の実施可能性については検討を要するが、同時にこの種の活動を他の団体で実施するための支援・協力を検討課題としたい。

(6) その他参考資料

1. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_英語版
2. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_繁体字版
3. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_簡体字版
4. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_韓国語版
5. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_ネパール語版
6. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_ベトナム語版
7. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_ミャンマー語版
8. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_日本語版
9. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_英語版_第3セッション用
10. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_繁体字版_第3セッション用
11. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_簡体字版_第3セッション用
12. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_韓国語版_第3セッション用
13. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_ネパール語版_第3セッション用
14. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_ベトナム語版_第3セッション用
15. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_ミャンマー語版_第3セッション用
16. 2021年度_わくわくとしま日本語教室チラシ_日本語版_第3セッション用
17. 2021年度_シンポジウムチラシ
18. 2021年度_「外国人とともに学ぶコミュニケーション講座」チラシ